実務経験のある教員による授業科目の単位数

	作新学院大学女子短期大学部　幼児教育科
学科科目	52
合計	52
設置基準上の標準単位数	62

「実務経験のある教員による授業科目」として計上した授業科目の一覧

科目名	単位数	科目名	単位数
障害児保育	1	子どもの食と栄養	2
臨床心理学	2	基礎教養Ⅰ	1
社会的養護Ⅰ	2	基礎教養Ⅱ	1
社会的養護Ⅱ	2	発達心理学	2
子どもの保健	2	教育心理学	1
子ども家庭支援論	2	ライフデザイン	2
子育て支援	1	社会福祉	2
子ども家庭福祉	2	人間関係(指導法)	1
特別支援教育学入門	1	児童文化Ⅰ	1
子ども家庭支援の心理学	2	児童文化Ⅱ	1
保育・教職実践演習（幼）	2	幼稚園実習Ⅰ	2
乳児保育Ⅰ	2	幼稚園実習Ⅱ	2
乳児保育Ⅱ	1	保育実習１（保育所）	2
保育実習指導Ⅰ（施設）	1	保育実習Ⅰ（施設）	2
保育実習指導Ⅲ	1	保育実習Ⅱ	2
教育相談	2	保育実習Ⅲ	2
	26		26
			52

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	障害児保育　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：30分 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。 発表担当班の人は，教科書の内容をレジュメにまとめて発表してください。 復習：15分 授業時に配布したプリントや該当章を読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 現在、「インクルーシブ保育」という障害児と健常児が共に生活する保育が主流となりつつある。そこで、保育者には障害の知識や障害児に対する関わり方を学ぶ必要がある。そこで、本科目では、障害の概念から障害種別の理解と支援方法、さらには職員間連携・地域連携・小学校との連携と幅広い知識とかかわり方を習得する。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義形式、グループワーク、実習、実技、実験、学外実習、少人数ゼミ、輪読など 1～3回目は講義形式で行い、4回目以降はグループ発表を中心に進め、発表後補足説明を行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行う。 ・小テスト･･･毎回、前回の4問と今回の1問を出題する。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを集計後、学期末テスト前に返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め）

	第２回　「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 第３回　地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解 第４回　肢体不自由児の理解と援助 第５回　知的障害児の理解と援助 第６回　視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助 第７回　発達障害児の理解と援助（ADHD、LD、ASD） 第８回　重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 第９回　発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い 第10回　障害児保育における子どもの健康と安全 第11回　職員間の連携・協働 第12回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 第13回　地域の専門機関との連携 第14回　小学校等との連携 第15回　福祉・教育における現状と課題 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2306 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　発表　20%（プレゼンテーションの際の発表内容） ③　小テスト　30%（小テストの成績） ④　期末テスト　40%（授業内容の理解度評価） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	咲間まり子（編著）「(仮)特別支援教育・障害児保育入門」建帛社
参考書	適宜紹介します。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680（直通）
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	障害児保育　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：30分 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。 発表担当班の人は，教科書の内容をレジュメにまとめて発表してください。 復習：15分 授業時に配布したプリントや該当章を読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 現在、「インクルーシブ保育」という障害児と健常児が共に生活する保育が主流となりつつある。そこで、保育者には障害の知識や障害児に対する関わり方を学ぶ必要がある。そこで、本科目では、障害の概念から障害種別の理解と支援方法、さらには職員間連携・地域連携・小学校との連携と幅広い知識とかかわり方を習得する。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義形式、グループワーク、実習、実技、実験、学外実習、少人数ゼミ、輪読など 1～3回目は講義形式で行い、4回目以降はグループ発表を中心に進め、発表後補足説明を行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行う。 ・小テスト･･･毎回、前回の4問と今回の1問を出題する。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを集計後、学期末テスト前に返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め）

	第２回　「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 第３回　地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解 第４回　肢体不自由児の理解と援助 第５回　知的障害児の理解と援助 第６回　視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助 第７回　発達障害児の理解と援助（ADHD、LD、ASD） 第８回　重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 第９回　発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い 第10回　障害児保育における子どもの健康と安全 第11回　職員間の連携・協働 第12回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 第13回　地域の専門機関との連携 第14回　小学校等との連携 第15回　福祉・教育における現状と課題 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2306 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　発表　20%（プレゼンテーションの際の発表内容） ③　小テスト　30%（小テストの成績） ④　期末テスト　40%（授業内容の理解度評価） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	咲間まり子（編著）「(仮)特別支援教育・障害児保育入門」建帛社
参考書	適宜紹介します。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680（直通）
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	障害児保育　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識について学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：30分 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書で該当する箇所の予習をして授業に臨んでください。必ず事前に準備学習（予習）やテキストの下読みをして授業に臨んでください。 発表担当班の人は，教科書の内容をレジュメにまとめて発表してください。 復習：15分 授業時に配布したプリントや該当章を読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 現在、「インクルーシブ保育」という障害児と健常児が共に生活する保育が主流となりつつある。そこで、保育者には障害の知識や障害児に対する関わり方を学ぶ必要がある。そこで、本科目では、障害の概念から障害種別の理解と支援方法、さらには職員間連携・地域連携・小学校との連携と幅広い知識とかかわり方を習得する。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義形式、グループワーク、実習、実技、実験、学外実習、少人数ゼミ、輪読など 1～3回目は講義形式で行い、4回目以降はグループ発表を中心に進め、発表後補足説明を行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行う。 ・小テスト･･･毎回、前回の4問と今回の1問を出題する。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを集計後、学期末テスト前に返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め）

	第２回　「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 第３回　地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解 第４回　肢体不自由児の理解と援助 第５回　知的障害児の理解と援助 第６回　視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助 第７回　発達障害児の理解と援助（ADHD、LD、ASD） 第８回　重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 第９回　発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い 第10回　障害児保育における子どもの健康と安全 第11回　職員間の連携・協働 第12回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 第13回　地域の専門機関との連携 第14回　小学校等との連携 第15回　福祉・教育における現状と課題 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「復習テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2306 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　発表　20%（プレゼンテーションの際の発表内容） ③　小テスト　30%（小テストの成績） ④　期末テスト　40%（授業内容の理解度評価） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	咲間まり子（編著）「(仮)特別支援教育・障害児保育入門」建帛社
参考書	適宜紹介します。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680（直通）
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床心理学　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育現場では，さまざまな心の問題に出会います。すでに，実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。また，問題に限らずとも，子どもの絵や遊びには，子どもの気持ち，知的な高さ，精神的な成熟度，社会性の発達の程度，運動機能の成長度など，さまざまなことが表現されています。 本授業では，保育中の子どもの行動を，より多面的に理解できるようになるために，子どもの絵や遊びについて学びます。 また，他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では，自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，①②を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：45分 予習課題を実施。 復習：45分 授業時に配布したプリントを読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 保育現場では、子どものみでなく、保護者や同僚など様々な人と関わります。その中で、他者を理解し、自分が何ができるのかを客観的に判断することが求められます。本科目では、心理テストや心理療法の概論を学び、実際に心理テストや心理療法を体験することで、自分自身の特徴を理解します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義と演習を交互に行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・心理検査を実施したり、心理療法を体験したりします。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方） 第２回　心理テスト①（ＴＥＧと交流分析） 第３回　人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論） 第４回　表現療法①（コラージュ療法）

	第５回　表現療法②（箱庭療法） 第６回　心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論） 第７回　精神障害について 第８回　心理テスト②（バウムテスト・ＨＴＰ） 第９回　心理テスト③（風景構成法） 第10回　発達検査（遠城寺式・津守稲毛式） 第11回　心理療法について 第12回　実際の心理面接室の見学・体験 第13回　心理面接技法 第14回　心理面接体験 第15回　まとめ 本授業では，なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には，心理テスト，描画，ワークを通して，子どもを理解する視点について体験的に学びます。 講義の週には，これらの背景にある基礎理論について学びます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2405 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　小テスト　10%（小テストの成績） ③　心理テスト体験レポート　30%（心理テストのレポート課題） ③　期末レポート　40%（授業修得度） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。毎回，プリントを配布します。
参考書	下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」　ミネルヴァ書房
学生へのメッセージ	子どもの言動，製作物，遊びなどには，ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。 心の問題，発達課題，子どもの気持ち，家族の関係などなど。 これらのことを意識し，「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう，一緒に学んでいきましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680(直通)
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床心理学　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育現場では，さまざまな心の問題に出会います。すでに，実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。また，問題に限らずとも，子どもの絵や遊びには，子どもの気持ち，知的な高さ，精神的な成熟度，社会性の発達の程度，運動機能の成長度など，さまざまなことが表現されています。 本授業では，保育中の子どもの行動を，より多面的に理解できるようになるために，子どもの絵や遊びについて学びます。 また，他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では，自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，①②を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：45分 予習課題を実施。 復習：45分 授業時に配布したプリントを読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 保育現場では、子どものみでなく、保護者や同僚など様々な人と関わります。その中で、他者を理解し、自分が何ができるのかを客観的に判断することが求められます。本科目では、心理テストや心理療法の概論を学び、実際に心理テストや心理療法を体験することで、自分自身の特徴を理解します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義と演習を交互に行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・心理検査を実施したり、心理療法を体験したりします。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方） 第２回　心理テスト①（ＴＥＧと交流分析） 第３回　人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論） 第４回　表現療法①（コラージュ療法）

	第５回　表現療法②（箱庭療法） 第６回　心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論） 第７回　精神障害について 第８回　心理テスト②（バウムテスト・ＨＴＰ） 第９回　心理テスト③（風景構成法） 第10回　発達検査（遠城寺式・津守稲毛式） 第11回　心理療法について 第12回　実際の心理面接室の見学・体験 第13回　心理面接技法 第14回　心理面接体験 第15回　まとめ 本授業では，なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には，心理テスト，描画，ワークを通して，子どもを理解する視点について体験的に学びます。 講義の週には，これらの背景にある基礎理論について学びます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2405 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　小テスト　10%（小テストの成績） ③　心理テスト体験レポート　30%（心理テストのレポート課題） ③　期末レポート　40%（授業修得度） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。毎回，プリントを配布します。
参考書	下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」　ミネルヴァ書房
学生へのメッセージ	子どもの言動，製作物，遊びなどには，ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。 心の問題，発達課題，子どもの気持ち，家族の関係などなど。 これらのことを意識し，「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう，一緒に学んでいきましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680(直通)
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	臨床心理学　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育現場では，さまざまな心の問題に出会います。すでに，実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。また，問題に限らずとも，子どもの絵や遊びには，子どもの気持ち，知的な高さ，精神的な成熟度，社会性の発達の程度，運動機能の成長度など，さまざまなことが表現されています。 本授業では，保育中の子どもの行動を，より多面的に理解できるようになるために，子どもの絵や遊びについて学びます。 また，他者を理解するには自分自身をよく知っている必要があります。本授業では，自分をよりよく理解するための心理テストについても学びます。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，①②を重視します。 本科目の幼児教育科のディプロマ・ポリシーは、【知識・理解】における「１．諸領域の学問分野における基礎的知識を持っている」、【技能】における「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身に付けている」「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」、【態度・志向性】における「６．自学自習・自主自立を実践できる」「７．他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」である。
準備学習	予習：45分 予習課題を実施。 復習：45分 授業時に配布したプリントを読み返し、次回の小テスト対策をしてください
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 保育現場では、子どものみでなく、保護者や同僚など様々な人と関わります。その中で、他者を理解し、自分が何ができるのかを客観的に判断することが求められます。本科目では、心理テストや心理療法の概論を学び、実際に心理テストや心理療法を体験することで、自分自身の特徴を理解します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と ICT を活用する。 ②授業形態 講義と演習を交互に行う。 ③アクティブラーニングの有無 ・心理検査を実施したり、心理療法を体験したりします。 ④課題に対するフィードバックの方法 採点した小テストを返却する。 第１回　オリエンテーション（授業の進め方） 第２回　心理テスト①（ＴＥＧと交流分析） 第３回　人格論（フロイト・ロジャーズ・ユングの人格論） 第４回　表現療法①（コラージュ療法）

	第５回　表現療法②（箱庭療法） 第６回　心の発達の基礎理論①（フロイトの発達論） 第７回　精神障害について 第８回　心理テスト②（バウムテスト・ＨＴＰ） 第９回　心理テスト③（風景構成法） 第10回　発達検査（遠城寺式・津守稲毛式） 第11回　心理療法について 第12回　実際の心理面接室の見学・体験 第13回　心理面接技法 第14回　心理面接体験 第15回　まとめ 本授業では，なるべく心理査定の週と講義の週が交互になるように計画しています。心理査定の週には，心理テスト，描画，ワークを通して，子どもを理解する視点について体験的に学びます。 講義の週には，これらの背景にある基礎理論について学びます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2405 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	授業での課題への取り組み姿勢や発表，期末試験の成績等によって評価します。 ①　平常点　10%（授業態度など） ②　小テスト　10%（小テストの成績） ③　心理テスト体験レポート　30%（心理テストのレポート課題） ③　期末レポート　40%（授業修得度） 毎回，授業の始めに前回の内容に関する小テストを行います。 小テストの結果も成績評価に含まれます。 必ず，予習・復習して授業に臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。毎回，プリントを配布します。
参考書	下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」　ミネルヴァ書房
学生へのメッセージ	子どもの言動，製作物，遊びなどには，ベストな保育に近づくためのいろいろなヒントが隠れています。 心の問題，発達課題，子どもの気持ち，家族の関係などなど。 これらのことを意識し，「その子にとってのベストな保育」により近づけるよう，一緒に学んでいきましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２０研究室 水・木・金が出講日です。直接，研究室を訪ねてください。
電話番号	028-670-3680(直通)
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅰ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の基本を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑵社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、説明できる。 ⑷子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、考察することができる。⑸社会的養護の現状と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、現代社会における社会的養護の意義と制度・実施体系、社会的養護の歴史的変遷および現状と課題、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本などを学び、社会的養護の基本と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護の理念と概念 第２回　社会的養護の歴史的変遷 第３回　社会的養護の基本原則（子どもの人権擁護など） 第４回　社会的養護における保育士等の倫理と責務 第５回　社会的養護の制度と法体系 第６回　社会的養護の仕組みと実施体系 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会的養護の対象 第９回　家庭養護と施設養護 第１０回　社会的養護に関わる専門職 第１１回　社会的養護に関する社会的状況（施設養護の課題と改善策など） 第１２回　被措置児童等の虐待防止と社会的養護 第１３回　社会的養護と地域福祉 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ２３０２ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	相澤譲治・他「子どもと社会的養護の基本」（学文社　¥2,000＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の基本と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅰ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の基本を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑵社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、説明できる。 ⑷子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、考察することができる。⑸社会的養護の現状と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、現代社会における社会的養護の意義と制度・実施体系、社会的養護の歴史的変遷および現状と課題、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本などを学び、社会的養護の基本と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護の理念と概念 第２回　社会的養護の歴史的変遷 第３回　社会的養護の基本原則（子どもの人権擁護など） 第４回　社会的養護における保育士等の倫理と責務 第５回　社会的養護の制度と法体系 第６回　社会的養護の仕組みと実施体系 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会的養護の対象 第９回　家庭養護と施設養護 第１０回　社会的養護に関わる専門職 第１１回　社会的養護に関する社会的状況（施設養護の課題と改善策など） 第１２回　被措置児童等の虐待防止と社会的養護 第１３回　社会的養護と地域福祉 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ２３０２ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	相澤譲治・他「子どもと社会的養護の基本」（学文社　¥2,000＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の基本と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅰ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	５時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の基本を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑵社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、説明できる。 ⑷子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、考察することができる。⑸社会的養護の現状と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、現代社会における社会的養護の意義と制度・実施体系、社会的養護の歴史的変遷および現状と課題、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本などを学び、社会的養護の基本と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護の理念と概念 第２回　社会的養護の歴史的変遷 第３回　社会的養護の基本原則（子どもの人権擁護など） 第４回　社会的養護における保育士等の倫理と責務 第５回　社会的養護の制度と法体系 第６回　社会的養護の仕組みと実施体系 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会的養護の対象 第９回　家庭養護と施設養護 第１０回　社会的養護に関わる専門職 第１１回　社会的養護に関する社会的状況（施設養護の課題と改善策など） 第１２回　被措置児童等の虐待防止と社会的養護 第１３回　社会的養護と地域福祉 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ２３０２ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	相澤譲治・他「子どもと社会的養護の基本」（学文社　¥2,000＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の基本と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅱ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の実際を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、考察することができる。 ⑵施設養護及び家庭養護の実際について理解し、考察することができる。 ⑶社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、考察することができる。 ⑷社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、考察することができる。 ⑸社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や施設養護・家庭養護および社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援などを学び、社会的養護の実際と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたア

	クティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護における子どもの理解（講義） 第２回　社会的養護における日常生活支援（演習） 第３回　社会的養護における治療的支援（演習） 第４回　社会的養護における自立支援（演習） 第５回　施設養護の生活特性及び実際（演習） 第６回　家庭養護の生活特性及び実際（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係る確認テスト 第８回　社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成（演習） 第９回　社会的養護における記録および自己評価（演習） 第１０回　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践（演習） 第１１回　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（演習） 第１２回　社会的養護における家庭支援（演習） 第１３回　社会的養護の課題と展望（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係る確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ（講義） 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＵＮ２３０６ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　５０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	橋本好市・他「演習・保育と社会的養護実践」（みらい　¥2,100＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅱ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の実際を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、考察することができる。 ⑵施設養護及び家庭養護の実際について理解し、考察することができる。 ⑶社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、考察することができる。 ⑷社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、考察することができる。 ⑸社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や施設養護・家庭養護および社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援などを学び、社会的養護の実際と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたア

	クティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護における子どもの理解（講義） 第２回　社会的養護における日常生活支援（演習） 第３回　社会的養護における治療的支援（演習） 第４回　社会的養護における自立支援（演習） 第５回　施設養護の生活特性及び実際（演習） 第６回　家庭養護の生活特性及び実際（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係る確認テスト 第８回　社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成（演習） 第９回　社会的養護における記録および自己評価（演習） 第１０回　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践（演習） 第１１回　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（演習） 第１２回　社会的養護における家庭支援（演習） 第１３回　社会的養護の課題と展望（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係る確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ（講義） 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＵＮ２３０６ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　５０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	橋本好市・他「演習・保育と社会的養護実践」（みらい　¥2,100＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅱ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する社会的養護の実際を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、考察することができる。 ⑵施設養護及び家庭養護の実際について理解し、考察することができる。 ⑶社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、考察することができる。 ⑷社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、考察することができる。 ⑸社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを専門家（保育士など）が支援する取り組みです。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容や施設養護・家庭養護および社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護に関わる相談援助の方法・技術、社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援などを学び、社会的養護の実際と重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたア

	クティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会的養護における子どもの理解（講義） 第２回　社会的養護における日常生活支援（演習） 第３回　社会的養護における治療的支援（演習） 第４回　社会的養護における自立支援（演習） 第５回　施設養護の生活特性及び実際（演習） 第６回　家庭養護の生活特性及び実際（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係る確認テスト 第８回　社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画の作成（演習） 第９回　社会的養護における記録および自己評価（演習） 第１０回　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践（演習） 第１１回　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（演習） 第１２回　社会的養護における家庭支援（演習） 第１３回　社会的養護の課題と展望（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係る確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ（講義） 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＵＮ２３０６ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　５０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	橋本好市・他「演習・保育と社会的養護実践」（みらい　¥2,100＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	家庭環境や障がい状況などにかかわらず、保育・幼児教育の専門家は、全ての子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが社会的使命といえます。社会的養護は、様々な理由で家族と生活することが難しい子どもたちを支援する取り組みです。本授業をとおして、社会的養護の実際と重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子どもの保健		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	木曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 藤垣　義浩	指定なし
指定なし	千葉　暢子	指定なし
指定なし	大木　英彰	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	1)　到達目標とテーマ 1.　子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。 2.　子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 3.　保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 2)　学修成果評価マトリックスとの関連 到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②を重視する。 3)　ディプロマ・ポリシーとの関連 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられる。
準備学習	1)　予習事項と、それに必要な時間（所要時間90分） 2)　復習事項と、それに必要な時間（所要時間90分） 毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと（所要時間90分）。また、同時に，次回の授業範囲を伝えるので、事前課題を学習すること（所要時間90分）。
授業の概要及び授業計画	1)　授業の概要 子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育と保健の関係について理解する。 また、子どもの心身の健康状態を把握の方法を理解し、そのうえで疾病とその予防及び適切な対応を理解する。さらに健康の概念を理解したうえで、成長発達のプロセス、生理機能、運動機能の発達を学習する。 2)　授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物、ICTを活用する。 ②授業形式 講義形式で説明する。 ③アクティブラーニング グループワーク、発表（プレゼンテーション）などを行う。 ④課題に対するフィードバック

	課題に対して随時解説を行いフィードバックする。 3) 授業計画 第1回： 子どもの保健 活動の意義と目的 第2回： 発生と胎児・乳児の発育 第3回： 母子保健 第4回： 発育と発達 第5回： 虐待 第6回： 精神心理の発達 第7回： 健康状態の把握とよくみられる症状 第8回： 感染症総論 第9回： 発疹性疾患 第10回： 呼吸器感染症 第11回： 生活習慣病 第12回： 夏風邪・消化器感染症 第13回： 感染予防 第14回： アレルギー・救急 第15回： 保護者との情報共有と家族の支援 期末試験
特記事項等	1) 実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（医師、看護師、保健師）が担当する。 2) 科目のナンバリング SUN2302 3) その他の特記事項 なし
成績評価法	1) 試験 85% 期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。 2) レポート 0% レポートで、授業内容の習得状況を評価する。 3) 平準点 15% 確認テスト及び授業態度を評価する。 4) その他 0% 発表について評価する。
教科書	『子どもの保健テキスト』 小林 美由紀 、他 診断と治療社 ¥2,200
参考書	講義内容に応じて適時提示
研究室（訪問先等）	非常勤講師室（前期、木曜日）
電話番号	028-667-7111（代）

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援論　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者の重要な役割である子育て支援（子育ち・親育ちの支援）を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明できる。 ⑵子育て家庭に対する支援の体制について理解し、説明できる。 ⑶保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、考察することができる。 ⑷子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について理解し、考察することができる。 ⑸主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本と支援の展開（ソーシャルワークの応用など）、子ども家庭支援の現状・課題などを学び、子育て支援（子育ち・親育ちの支援）における保育者の役割・機能を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭支援の意義と役割 第２回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援（親育ちの支援と共感・受容の重要性） 第３回　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第４回　保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 第５回　家庭の状況に応じた支援 第６回　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子育て家庭に対する支援体制・施策と内容・対象 第９回　子育て家庭の福祉を図社会資源の活用 第１０回　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第１１回　地域の子育て家庭への支援 第１２回　要保護児童等及びその家庭に対する支援 第１３回　子ども家庭支援に関する現状と課題 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ１２０３ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「ソーシャルワークへの招待　ソーシャルワーク入門」（ミネルヴァ書　¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育ち・親育ちの支援）も重要です。本授業をとおして、ソーシャルワークが子育ち・親育ちの支援に役立つことを学んでください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援論　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者の重要な役割である子育て支援（子育ち・親育ちの支援）を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明できる。 ⑵子育て家庭に対する支援の体制について理解し、説明できる。 ⑶保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、考察することができる。 ⑷子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について理解し、考察することができる。 ⑸主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本と支援の展開（ソーシャルワークの応用など）、子ども家庭支援の現状・課題などを学び、子育て支援（子育ち・親育ちの支援）における保育者の役割・機能を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭支援の意義と役割 第２回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援（親育ちの支援と共感・受容の重要性） 第３回　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第４回　保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 第５回　家庭の状況に応じた支援 第６回　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子育て家庭に対する支援体制・施策と内容・対象 第９回　子育て家庭の福祉を図社会資源の活用 第１０回　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第１１回　地域の子育て家庭への支援 第１２回　要保護児童等及びその家庭に対する支援 第１３回　子ども家庭支援に関する現状と課題 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ１２０３ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「ソーシャルワークへの招待　ソーシャルワーク入門」（ミネルヴァ書　¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育ち・親育ちの支援）も重要です。本授業をとおして、ソーシャルワークが子育ち・親育ちの支援に役立つことを学んでください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援論　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者の重要な役割である子育て支援（子育ち・親育ちの支援）を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明できる。 ⑵子育て家庭に対する支援の体制について理解し、説明できる。 ⑶保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し、考察することができる。 ⑷子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状・課題について理解し、考察することができる。 ⑸主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、子育て家庭に対する支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の基本と支援の展開（ソーシャルワークの応用など）、子ども家庭支援の現状・課題などを学び、子育て支援（子育ち・親育ちの支援）における保育者の役割・機能を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストを

	おこないます。 ③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭支援の意義と役割 第２回　保育の専門性を活かした子ども家庭支援（親育ちの支援と共感・受容の重要性） 第３回　保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 第４回　保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等） 第５回　家庭の状況に応じた支援 第６回　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子育て家庭に対する支援体制・施策と内容・対象 第９回　子育て家庭の福祉を図社会資源の活用 第１０回　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第１１回　地域の子育て家庭への支援 第１２回　要保護児童等及びその家庭に対する支援 第１３回　子ども家庭支援に関する現状と課題 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ１２０３ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「ソーシャルワークへの招待　ソーシャルワーク入門」（ミネルヴァ書　¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援（子育ち・親育ちの支援）も重要です。本授業をとおして、ソーシャルワークが子育ち・親育ちの支援に役立つことを学んでください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子育て支援　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。 ⑵保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、考察することができる。 ⑶主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、保育の専門性を基盤とした保護者に対する相談援助の実際や特徴、子育て家庭の多様なニーズに即した支援内容・方法・技術（ソーシャルワークの応用など）を学び、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教

	科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子どもの保育とともに行う保護者の支援（講義） 第２回　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（演習） 第３回　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（演習） 第４回　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供（演習） 第５回　保育者が取り組む子育て支援の展開①：支援計画の策定と実践・記録（演習） 第６回　保育者が取り組む子育て支援の展開②：連携・協働と社会資源の活用（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　保育所における支援（演習） 第９回　地域の子育て家庭に対する支援（演習） 第１０回　障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１１回　特別な配慮を要する子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１２回　要保護児童と家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１３回　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング SOB2401 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　５０％　定期試験で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	小原敏郎・他「演習・保育と保護者への支援」（みらい　¥2,200＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を身につけてください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子育て支援　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。 ⑵保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、考察することができる。 ⑶主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、保育の専門性を基盤とした保護者に対する相談援助の実際や特徴、子育て家庭の多様なニーズに即した支援内容・方法・技術（ソーシャルワークの応用など）を学び、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教

	科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子どもの保育とともに行う保護者の支援（講義） 第２回　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（演習） 第３回　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（演習） 第４回　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供（演習） 第５回　保育者が取り組む子育て支援の展開①：支援計画の策定と実践・記録（演習） 第６回　保育者が取り組む子育て支援の展開②：連携・協働と社会資源の活用（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　保育所における支援（演習） 第９回　地域の子育て家庭に対する支援（演習） 第１０回　障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１１回　特別な配慮を要する子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１２回　要保護児童と家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１３回　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング SOB2401 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　５０％　定期試験で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	小原敏郎・他「演習・保育と保護者への支援」（みらい　¥2,200＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を身につけてください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子育て支援　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）などを理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、考察することができる。 ⑵保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、考察することができる。 ⑶主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には２５分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には２０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 近年の保育・幼児教育は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障とならび、多種多様なニーズをもつ子育て家庭の支援も重視されています。そこで本授業は、事例検討を中心としたアクティブラーニング（グループ学習）により、保育の専門性を基盤とした保護者に対する相談援助の実際や特徴、子育て家庭の多様なニーズに即した支援内容・方法・技術（ソーシャルワークの応用など）を学び、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式もしくはパワーポイント・視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用し、アクティブラーニングの課題や教

	科書の内容を説明します。さらに教科書などの事例を小グループで検討し、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。さらに第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ③アクティブラーニングの有無 第２回～第６回、第８回～第１３回の授業では、ディスカッションを中心としたアクティブラーニングに取り組みます。また、第７回・第１４回の授業では確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子どもの保育とともに行う保護者の支援（講義） 第２回　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（演習） 第３回　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（演習） 第４回　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供（演習） 第５回　保育者が取り組む子育て支援の展開①：支援計画の策定と実践・記録（演習） 第６回　保育者が取り組む子育て支援の展開②：連携・協働と社会資源の活用（演習） 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　保育所における支援（演習） 第９回　地域の子育て家庭に対する支援（演習） 第１０回　障がいのある子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１１回　特別な配慮を要する子どもと家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１２回　要保護児童と家族（保護者など）に対する支援（演習） 第１３回　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（講義・演習） 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング SOB2401 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　５０％　定期試験で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　５０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	小原敏郎・他「演習・保育と保護者への支援」（みらい　¥2,200＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子ども一人ひとりの発達保障や学習保障だけでなく、多種多様なニーズ（課題・希望）をもつ子育て家庭の支援も重要です。本授業をとおして、保護者の皆さんの「親育ち」を支援する知識・技術や価値観（視点や考え方）を身につけてください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭福祉　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育・幼児教育の仕事と深くかかわる子ども家庭福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの人権擁護について理解し、説明できる。 ⑵子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑷現代社会における子ども家庭福祉の意義について理解し、考察することができる。 ⑸子ども家庭福祉の現状と課題および動向と展望について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 子ども家庭福祉は、保育・幼児教育の仕事と深くかかわる社会福祉分野です。そこで本授業は、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現代社会における子ども家庭福祉の意義・課題などを学び、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭福祉の理念と概念 第２回　子ども家庭福祉の歴史的変遷 第３回　現代社会と子ども家庭福祉 第４回　子どもの人権擁護の歴史的変遷 第５回　保育・幼児教育と児童の権利に関する条約 第６回　子どもの人権擁護と現代社会における課題 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子ども家庭福祉の制度と実施体系 第９回　子ども家庭福祉の専門職と児童福祉施設 第１０回　子ども家庭福祉の現状と課題①：地域子育て支援と母子保健・健全育成 第１１回　子ども家庭福祉の現状と課題②：多様化する保育ニーズへの対応 第１２回　子ども家庭福祉の現状と課題③：子ども虐待の問題と社会的養護 第１３回　子ども家庭福祉の現状と課題④：多様化する子どもと家族の福祉ニーズ 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ１２０２ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「子ども家庭福祉への招待」（ミネルヴァ書房　¥2,800＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と子ども家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭福祉　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育・幼児教育の仕事と深くかかわる子ども家庭福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの人権擁護について理解し、説明できる。 ⑵子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑷現代社会における子ども家庭福祉の意義について理解し、考察することができる。 ⑸子ども家庭福祉の現状と課題および動向と展望について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 子ども家庭福祉は、保育・幼児教育の仕事と深くかかわる社会福祉分野です。そこで本授業は、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現代社会における子ども家庭福祉の意義・課題などを学び、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭福祉の理念と概念 第２回　子ども家庭福祉の歴史的変遷 第３回　現代社会と子ども家庭福祉 第４回　子どもの人権擁護の歴史的変遷 第５回　保育・幼児教育と児童の権利に関する条約 第６回　子どもの人権擁護と現代社会における課題 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子ども家庭福祉の制度と実施体系 第９回　子ども家庭福祉の専門職と児童福祉施設 第１０回　子ども家庭福祉の現状と課題①：地域子育て支援と母子保健・健全育成 第１１回　子ども家庭福祉の現状と課題②：多様化する保育ニーズへの対応 第１２回　子ども家庭福祉の現状と課題③：子ども虐待の問題と社会的養護 第１３回　子ども家庭福祉の現状と課題④：多様化する子どもと家族の福祉ニーズ 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＯＢ１２０２ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	北川清一・他「子ども家庭福祉への招待」（ミネルヴァ書房　¥2,800＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と子ども家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭福祉　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	0.00
代表曜日	月曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育・幼児教育の仕事と深くかかわる子ども家庭福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴子どもの人権擁護について理解し、説明できる。 ⑵子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる。 ⑶子ども家庭福祉の歴史的変遷について理解し、説明できる。 ⑷現代社会における子ども家庭福祉の意義について理解し、考察することができる。 ⑸子ども家庭福祉の現状と課題および動向と展望について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」および「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 子ども家庭福祉は、保育・幼児教育の仕事と深くかかわる社会福祉分野です。そこで本授業は、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現代社会における子ども家庭福祉の意義・課題などを学び、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］ ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②子ども家庭福祉の理念と概念 第２回　子ども家庭福祉の歴史的変遷 第３回　現代社会と子ども家庭福祉 第４回　子どもの人権擁護の歴史的変遷 第５回　保育・幼児教育と児童の権利に関する条約 第６回　子どもの人権擁護と現代社会における課題 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　子ども家庭福祉の制度と実施体系 第９回　子ども家庭福祉の専門職と児童福祉施設 第１０回　子ども家庭福祉の現状と課題①：地域子育て支援と母子保健・健全育成 第１１回　子ども家庭福祉の現状と課題②：多様化する保育ニーズへの対応 第１２回　子ども家庭福祉の現状と課題③：子ども虐待の問題と社会的養護 第１３回　子ども家庭福祉の現状と課題④：多様化する子どもと家族の福祉ニーズ 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＯＢ１２０２ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「子ども家庭福祉への招待」（ミネルヴァ書房　¥2,800＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	保育・幼児教育の仕事は、子育ち・親育ちを支援する子ども家庭福祉の仕組み（政策や法律など）や取り組み（実践）と深くかかわっています。また、子どもの権利を守り、子どもの最善の利益を尊重することが保育・幼児教育と子ども家庭福祉の共通基盤であることも理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	特別支援教育入門　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小栗　貴弘	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標とテーマ】 2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識と技能について説明できるようになることを目標とします。 【学修成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 【ディプロマ・ポリシーとの関連】 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。
準備学習	【予習事項と，それに必要な時間】 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。 【復習事項と，それに必要な時間】 復習として，教科書，レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。 復習した事項を中心に，毎回，授業の冒頭で小テストを行います。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障がい児への支援，および障害はないものの特別な教育的ニーズのある子どもへの支援について，主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では，板書とICTを活用します。 ②授業形態 主に演習形式で行います。各章の内容を学生が発表し，その後に補捉の講義やグループワークを行います。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行います。 ・小テスト･･･毎回，復習事項の4問と，予習事項の1問を出題します。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして，小テストを採点後，次回の授業時に返却し，解答の解説を行います。

	第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め） 第２回　障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 第３回　障がい児保育の基本 第４回　肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援 第５回　知的障がい児の理解と支援 第６回　発達障がい児（ADHD, LD, ASD）の理解と支援 第７回　保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価 第８回　個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い 第９回　職員間の協働 第10回　保護者や家族に対する理解と支援 第11回　地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成 第12回　小学校等との連携 第13回　保健・医療における現状と課題 第14回　福祉・教育における現状と課題 第15回　支援の場の広がりとつながり 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士・公認心理師）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2402 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	【評価の内容・割合・基準】 授業での課題への取り組み姿勢や提出物，期末試験の成績等によって評価します。 ①　試験　40%　期末試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②　レポート　0%　実施しません。 ③　平常点　30%　授業態度や提出物を評価します。 ④　その他　30%　授業冒頭の小テストと発表を評価します。
教科書	井村圭壮・今井慶宗(編)　「障がい児保育の基本と課題」　学文社
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で，洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど，保育の現場で出会う「困った子」は，もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。 そんな子への支援を，みんなで考えましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　非常勤講師室 木曜日が出講日です。 上記の部屋あるいは授業の前後の教室で質問に応じます。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	oguri@atomi.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	特別支援教育入門　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小栗　貴弘	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標とテーマ】 2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識と技能について説明できるようになることを目標とします。 【学修成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 【ディプロマ・ポリシーとの関連】 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。
準備学習	【予習事項と，それに必要な時間】 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。 【復習事項と，それに必要な時間】 復習として，教科書，レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。 復習した事項を中心に，毎回，授業の冒頭で小テストを行います。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障がい児への支援，および障害はないものの特別な教育的ニーズのある子どもへの支援について，主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では，板書とICTを活用します。 ②授業形態 主に演習形式で行います。各章の内容を学生が発表し，その後に補捉の講義やグループワークを行います。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行います。 ・小テスト･･･毎回，復習事項の4問と，予習事項の1問を出題します。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして，小テストを採点後，次回の授業時に返却し，解答の解説を行います。

	第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め） 第２回　障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 第３回　障がい児保育の基本 第４回　肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援 第５回　知的障がい児の理解と支援 第６回　発達障がい児（ADHD, LD, ASD）の理解と支援 第７回　保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価 第８回　個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い 第９回　職員間の協働 第10回　保護者や家族に対する理解と支援 第11回　地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成 第12回　小学校等との連携 第13回　保健・医療における現状と課題 第14回　福祉・教育における現状と課題 第15回　支援の場の広がりとつながり 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士・公認心理師）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2402 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	【評価の内容・割合・基準】 授業での課題への取り組み姿勢や提出物，期末試験の成績等によって評価します。 ①　試験　40%　期末試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②　レポート　0%　実施しません。 ③　平常点　30%　授業態度や提出物を評価します。 ④　その他　30%　授業冒頭の小テストと発表を評価します。
教科書	井村圭壮・今井慶宗(編)　「障がい児保育の基本と課題」　学文社
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で，洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど，保育の現場で出会う「困った子」は，もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。 そんな子への支援を，みんなで考えましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　非常勤講師室 木曜日が出講日です。 上記の部屋あるいは授業の前後の教室で質問に応じます。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	oguri@atomi.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	特別支援教育入門　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小栗　貴弘	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標とテーマ】 2007年に特別支援教育が始まり，教育の現場では障害児教育へのニーズが非常に高くなってきています。それにともなって，幼稚園や保育所でも障害児のニーズに合った保育を提供することが求められるようになってきました。 保育の現場に出てからは，みなさんが自分自身で，障害を抱える子どもの支援をしていく必要があります。したがって，本授業では個別の保育計画を作成する上で必要になってくる基礎的な知識と技能について説明できるようになることを目標とします。 【学修成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 【ディプロマ・ポリシーとの関連】 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。
準備学習	【予習事項と，それに必要な時間】 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，教科書等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。 【復習事項と，それに必要な時間】 復習として，教科書，レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。 復習した事項を中心に，毎回，授業の冒頭で小テストを行います。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障がい児への支援，および障害はないものの特別な教育的ニーズのある子どもへの支援について，主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では，板書とICTを活用します。 ②授業形態 主に演習形式で行います。各章の内容を学生が発表し，その後に補捉の講義やグループワークを行います。 ③アクティブラーニングの有無 ・学生によるプレゼンテーション･･･担当章をまとめてグループ発表を行います。 ・小テスト･･･毎回，復習事項の4問と，予習事項の1問を出題します。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして，小テストを採点後，次回の授業時に返却し，解答の解説を行います。

	第１回　オリエンテーション（授業の進め方・班決め・担当決め） 第２回　障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 第３回　障がい児保育の基本 第４回　肢体不自由児と視覚・聴覚障がい児の理解と支援 第５回　知的障がい児の理解と支援 第６回　発達障がい児（ADHD, LD, ASD）の理解と支援 第７回　保育課程に基づく個別指導計画の作成と記録および評価 第８回　個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士のかかわりと育ち合い 第９回　職員間の協働 第10回　保護者や家族に対する理解と支援 第11回　地域の専門機関等との連携および個別の支援計画の作成 第12回　小学校等との連携 第13回　保健・医療における現状と課題 第14回　福祉・教育における現状と課題 第15回　支援の場の広がりとつながり 期末試験 本授業では，「理解し・要約し・発表する」ことを通して，障害児への支援を主体的に考えてもらいます。 したがって，単に講義を聞いていればよいのではなく，自ら積極的に学び，参加する姿勢が求められます。 基本的な各回の流れとしては，「小テスト」→「発表」→「まとめ」という順序で進めていきます。
特記事項等	１）実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士・公認心理師）が担当します。 ２）科目のナンバリング SUN2402 ３）その他の特記事項 なし
成績評価法	【評価の内容・割合・基準】 授業での課題への取り組み姿勢や提出物，期末試験の成績等によって評価します。 ①　試験　40%　期末試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②　レポート　0%　実施しません。 ③　平常点　30%　授業態度や提出物を評価します。 ④　その他　30%　授業冒頭の小テストと発表を評価します。
教科書	井村圭壮・今井慶宗(編)　「障がい児保育の基本と課題」　学文社
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	「言うことを聞いてくれない」「お友達に暴力を振るう」「不器用で，洋服を自分で着られない」「みんなと一緒に遊べない」などなど，保育の現場で出会う「困った子」は，もしかするとその子自身が一番「困っている子」なのかもしれません。 そんな子への支援を，みんなで考えましょう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　非常勤講師室 木曜日が出講日です。 上記の部屋あるいは授業の前後の教室で質問に応じます。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	oguri@atomi.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援の心理学　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者は，子どもと保護者，その家庭生活を支援する存在である。本授業では，生涯発達の考え方や，家庭の意義・機能について理解しながら、発達的な観点から子どもとその家族を捉える視点についてまず捉え，加えて，子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況や子ども心の発達と環境の影響に関わる諸々の問題について理解し論じることができることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマポリシーの「8.地域社会が抱える課題，特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　生涯発達と家庭・家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業の形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，家庭支援について論じる力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバック 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　生涯発達とは 第2回　子育て家庭に関する現状と課題①　家庭と社会的状況の変化 第3回　家族・家庭の意義と機能 第4回　親になるプロセス①　母親になる（基礎知識） 第5回　親になるプロセス②　母親になる（討論） 第6回　親になるプロセス③　父親になる 第7回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（基礎知識） 第8回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（討論） 第9回　家庭支援の方法と過程①　事例検討

	第10回　特別な配慮を要する家庭①　障害を持つ子どもと家族 第11回　特別な配慮を要する家庭②　ひとり親家族とステップファミリー 第12回　特別な配慮を要する家庭③　要保護児童がいる家庭 第13回　家庭支援の方法と過程②　保護者と保育者の関係づくり 第14回　子どもの精神保健 第15回　子どもの生活・生育環境とその影響 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング SOB2403 ③その他の特記事項 授業計画のうち，「家族の諸相ー親になるプロセス」については，外部講師に依頼する予定であり，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　60%　期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　40%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版） 橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる　家庭支援論』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2003年）『家族心理学―社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界） 佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援の心理学　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者は，子どもと保護者，その家庭生活を支援する存在である。本授業では，生涯発達の考え方や，家庭の意義・機能について理解しながら、発達的な観点から子どもとその家族を捉える視点についてまず捉え，加えて，子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況や子ども心の発達と環境の影響に関わる諸々の問題について理解し論じることができることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマポリシーの「8.地域社会が抱える課題，特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　生涯発達と家庭・家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業の形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，家庭支援について論じる力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバック 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　生涯発達とは 第2回　子育て家庭に関する現状と課題①　家庭と社会的状況の変化 第3回　家族・家庭の意義と機能 第4回　親になるプロセス①　母親になる（基礎知識） 第5回　親になるプロセス②　母親になる（討論） 第6回　親になるプロセス③　父親になる 第7回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（基礎知識） 第8回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（討論） 第9回　家庭支援の方法と過程①　事例検討

	第10回　特別な配慮を要する家庭①　障害を持つ子どもと家族 第11回　特別な配慮を要する家庭②　ひとり親家族とステップファミリー 第12回　特別な配慮を要する家庭③　要保護児童がいる家庭 第13回　家庭支援の方法と過程②　保護者と保育者の関係づくり 第14回　子どもの精神保健 第15回　子どもの生活・生育環境とその影響 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング SOB2403 ③その他の特記事項 授業計画のうち，「家族の諸相ー親になるプロセス」については，外部講師に依頼する予定であり，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　60%　期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　40%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版） 橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる　家庭支援論』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2003年）『家族心理学―社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界） 佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子ども家庭支援の心理学　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者は，子どもと保護者，その家庭生活を支援する存在である。本授業では，生涯発達の考え方や，家庭の意義・機能について理解しながら、発達的な観点から子どもとその家族を捉える視点についてまず捉え，加えて，子育て家庭を取り巻く現代の社会的状況や子ども心の発達と環境の影響に関わる諸々の問題について理解し論じることができることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマポリシーの「8.地域社会が抱える課題，特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　生涯発達と家庭・家族の形について理解を深めながら、保育者が行う家庭支援について考察していく。テーマごとに個人あるいはグループでの発表と討論を行う。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業の形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，家庭支援について論じる力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバック 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　生涯発達とは 第2回　子育て家庭に関する現状と課題①　家庭と社会的状況の変化 第3回　家族・家庭の意義と機能 第4回　親になるプロセス①　母親になる（基礎知識） 第5回　親になるプロセス②　母親になる（討論） 第6回　親になるプロセス③　父親になる 第7回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（基礎知識） 第8回　子育て家庭に関する現状と課題②　ワークライフバランス（討論） 第9回　家庭支援の方法と過程①　事例検討

	第10回　特別な配慮を要する家庭①　障害を持つ子どもと家族 第11回　特別な配慮を要する家庭②　ひとり親家族とステップファミリー 第12回　特別な配慮を要する家庭③　要保護児童がいる家庭 第13回　家庭支援の方法と過程②　保護者と保育者の関係づくり 第14回　子どもの精神保健 第15回　子どもの生活・生育環境とその影響 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング SOB2403 ③その他の特記事項 授業計画のうち，「家族の諸相ー親になるプロセス」については，外部講師に依頼する予定であり，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　60%　期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　40%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	真橋美智子ほか（2008年）『家族の発達支援と家庭教育』（大学図書出版） 橋本真紀・山懸文治編（2011年）『よくわかる　家庭支援論』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2007年）『よくわかる家族心理学』（ミネルヴァ書房） 柏木恵子（2003年）『家族心理学―社会変動・発達・ジェンダーの視点』（東京大学出版界） 佐々木正美（2012年）『ひとり親家庭でも子どもは健全に育ちます』（小学館）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育・教職実践演習(幼)　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 本授業の目的は、以下の3点である。 （１）教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。 （２）幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。 （３）異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」（保育計画）を作成する力量を身につけること。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については、学習成果における①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 特に①②③を重視する。 【３　ディプロマポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項の見直しを行って下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 （具体的な予習・復習の方法） これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと　②実習を通して学んで来たこと　③社会への関心を深めてほしいこと　の３つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。
授業の概要及び授業計画	【授業概要】 この授業は、すべての実習を終了し、卒業（及び就職）を目前に控えた学生が、本学での学びを振り返り、就職後の自分の姿をイメージする中で、残された課題を発見し解決して行くものである。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物、大型モニターを活用します。 ②授業形態 スクール形式の配置。６名程度の班に分かれて、班ごとに調査、ディスカッション、発表（プレゼンテーション）をしてもらいます。一部、ワークシートを使って添削・返却する授業も行います。 ③アクティブラーニング

	本教科では、「これまでの学習を振り返り、課題を発見し、ディスカッションを行い、発表する」ことを通して、保育者として現場で働く基礎的な能力を獲得してもらいます。 ④課題に対するフィードバック 発表（プレゼンテーション）を行った場合には、教員や受講生の評価を次回の授業時に通知します。また、授業内で配布・回収するワークシートは採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 第1回：ガイダンス（保育・教職実践演習とは、どんな授業か）（西田・矢野） 第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り（西田） 第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと（西田） 第4回：幼児の発達と保育者の援助（西田） 第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり（西田） 第6回：日本人の生命観と他界観（西田） 第7回：古典文学と昔ばなし（西田） 第8回：日本人の生活と年中行事（西田） 第9回：地域文化と昔あそび―指導法の体験活動（西田・矢野） 第10回：社会へのまなざしと保育の課題（矢野） 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育（矢野） 第12回：現代社会と保育者養成（矢野） 第13回：卒業後の成長をイメージしよう（矢野） 第14回：保育者としての残された課題（矢野） 第15回：グループ発表によるまとめ（矢野） 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理士・社会福祉士）が担当します。 ②科目ナンバリング SPR2401 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　60%（各パートの最終課題を含む　学修成果確認試験を行います。） ②レポート　20%（授業内で指示した課題についてのレポートを評価します。） ③平常点　20%（授業への参加態度を評価します。） ④その他　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合って行くみなさんにとって、総仕上げの授業です。２年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。
研究室（訪問先等）	西田：２１２研究室　矢野：２２８研究室 月・火・水・木・金　が出講日です。研究室を訪ねて下さい。
電話番号	０２８－６６７－７１１１（代）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育・教職実践演習(幼) CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 本授業の目的は、以下の3点である。 （１）教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。 （２）幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。 （３）異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」（保育計画）を作成する力量を身につけること。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については、学習成果における①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 特に①②③を重視する。 【３　ディプロマポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項の見直しを行って下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 （具体的な予習・復習の方法） これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと　②実習を通して学んで来たこと　③社会への関心を深めてほしいこと　の３つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。
授業の概要及び授業計画	【授業概要】 この授業は、すべての実習を終了し、卒業（及び就職）を目前に控えた学生が、本学での学びを振り返り、就職後の自分の姿をイメージする中で、残された課題を発見し解決して行くものである。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物、大型モニターを活用します。 ②授業形態 スクール形式の配置。６名程度の班に分かれて、班ごとに調査、ディスカッション、発表（プレゼンテーション）をしてもらいます。一部、ワークシートを使って添削・返却する授業も行います。 ③アクティブラーニング

	本教科では、「これまでの学習を振り返り、課題を発見し、ディスカッションを行い、発表する」ことを通して、保育者として現場で働く基礎的な能力を獲得してもらいます。 ④課題に対するフィードバック 発表（プレゼンテーション）を行った場合には、教員や受講生の評価を次回の授業時に通知します。また、授業内で配布・回収するワークシートは採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 第1回：ガイダンス（保育・教職実践演習とは、どんな授業か）（西田・矢野） 第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り（西田） 第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと（西田） 第4回：幼児の発達と保育者の援助（西田） 第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり（西田） 第6回：日本人の生命観と他界観（西田） 第7回：古典文学と昔ばなし（西田） 第8回：日本人の生活と年中行事（西田） 第9回：地域文化と昔あそび―指導法の体験活動（西田・矢野） 第10回：社会へのまなざしと保育の課題（矢野） 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育（矢野） 第12回：現代社会と保育者養成（矢野） 第13回：卒業後の成長をイメージしよう（矢野） 第14回：保育者としての残された課題（矢野） 第15回：グループ発表によるまとめ（矢野） 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理士・社会福祉士）が担当します。 ②科目ナンバリング SPR2401 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　60%（各パートの最終課題を含む　学修成果確認試験を行います。） ②レポート　20%（授業内で指示した課題についてのレポートを評価します。） ③平常点　20%（授業への参加態度を評価します。） ④その他　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合って行くみなさんにとって、総仕上げの授業です。２年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。
研究室（訪問先等）	西田：２１２研究室　矢野：２２８研究室 月・火・水・木・金　が出講日です。研究室を訪ねて下さい。
電話番号	０２８－６６７－７１１１（代）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育・教職実践演習(幼)　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 本授業の目的は、以下の3点である。 （１）教職課程の個々の科目の履修により習得した専門知識及び技能をもとに、幼稚園教諭としての使命感や倫理観を学ぶ。 （２）幼児や幼児を取り巻く環境を多面的に理解し、保育を実践できる能力を身につけること。 （３）異なる保育観を持つメンバーと協力して「あそびのプログラム」（保育計画）を作成する力量を身につけること。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については、学習成果における①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 特に①②③を重視する。 【３　ディプロマポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項の見直しを行って下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 （具体的な予習・復習の方法） これまでに作成してきた教職履修カルテをもとに、既習の事項を振り返り、不足している知識や技能を確認しておくこと。また、授業内で課される課題にしっかりと取り組むこと。なお、準備学習については、①これまで授業の中で学んだこと　②実習を通して学んで来たこと　③社会への関心を深めてほしいこと　の３つの観点から予習課題のプリントを毎回配付する。また、毎回授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませておくこと。
授業の概要及び授業計画	【授業概要】 この授業は、すべての実習を終了し、卒業（及び就職）を目前に控えた学生が、本学での学びを振り返り、就職後の自分の姿をイメージする中で、残された課題を発見し解決して行くものである。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物、大型モニターを活用します。 ②授業形態 スクール形式の配置。６名程度の班に分かれて、班ごとに調査、ディスカッション、発表（プレゼンテーション）をしてもらいます。一部、ワークシートを使って添削・返却する授業も行います。 ③アクティブラーニング

	本教科では、「これまでの学習を振り返り、課題を発見し、ディスカッションを行い、発表する」ことを通して、保育者として現場で働く基礎的な能力を獲得してもらいます。 ④課題に対するフィードバック 発表（プレゼンテーション）を行った場合には、教員や受講生の評価を次回の授業時に通知します。また、授業内で配布・回収するワークシートは採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 第1回：ガイダンス（保育・教職実践演習とは、どんな授業か）（西田・矢野） 第2回：教職履修カルテの確認と短大での学びの振り返り（西田） 第3回：卒業後の進路と実習で学んだこと（西田） 第4回：幼児の発達と保育者の援助（西田） 第5回：男女共同の子育てと保育者の関わり（西田） 第6回：日本人の生命観と他界観（西田） 第7回：古典文学と昔ばなし（西田） 第8回：日本人の生活と年中行事（西田） 第9回：地域文化と昔あそび―指導法の体験活動（西田・矢野） 第10回：社会へのまなざしと保育の課題（矢野） 第11回：歴史的観点から見直す現代の保育（矢野） 第12回：現代社会と保育者養成（矢野） 第13回：卒業後の成長をイメージしよう（矢野） 第14回：保育者としての残された課題（矢野） 第15回：グループ発表によるまとめ（矢野） 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理士・社会福祉士）が担当します。 ②科目ナンバリング SPR2401 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　60%（各パートの最終課題を含む　学修成果確認試験を行います。） ②レポート　20%（授業内で指示した課題についてのレポートを評価します。） ③平常点　20%（授業への参加態度を評価します。） ④その他　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	保育・教職実践演習は、これから就職して保育の現場で子どもたちと向き合って行くみなさんにとって、総仕上げの授業です。２年間の学びの成果を一つ一つ確認して行きましょう。
研究室（訪問先等）	西田：２１２研究室　矢野：２２８研究室 月・火・水・木・金　が出講日です。研究室を訪ねて下さい。
電話番号	０２８－６６７－７１１１（代）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅰ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	1.乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 2.保育所、乳児院等多様な保育現場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけている。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見や口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」と「6.自学自習・自主自律を実践できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている。」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所を読んでから授業に臨むこと。また、実習や日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心をもち、実践的に学びを深めること。各回の予習には30分かかると予想される。 また、復習として、テキストの授業内容箇所および配布した資料を熟読すること。日常での交流観察を通して、授業内容との省察に努めること。各回の復習には、15分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業概要 これまでの乳児保育の歴史的変遷及び、担ってきた役割を踏まえたうえで、多様化社会におけるこれからの乳児保育のあり方について学び、理解し、実践へと繋げていく。 視聴覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていくと共に、職員間の協働や関係機関との連携の必要性についても学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明した後、内容に即した視聴覚教材を使用する。 ③アクティブラーニング グループ学習、体験学習を行う。ミニレポートによる理解度確認。コメントシートの使用。 グループごとに、模擬離乳食を試食したり、互いに食べさせ合うことで嚥下や咀嚼の体感をし 学びや気づきについて、プレゼンテーションする。 月齢に即した発達や援助の方法を踏まえたうえで、保護者支援の観点からも言及することの出来るような模擬連絡ノートの記入を行い実践力を身につける。 模擬保育室において、実際におもちゃに触れ遊び、環境設定やおもちゃの選び方について学ぶ。

	以上、自ら積極的に学び、参加する姿勢を求める。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった時は、その都度対応し全体にフィードバックする。 ミニレポート、コメントシートについて、総評を行う。 【授業計画】 第1回：乳児保育の意義と役割（歴史的変遷を踏まえて） ー家族形態の変化と多様化、出生児数の減少、社会環境の変化、育児不安ー 第2回：保育所、乳児院、小規模保育施設等の多様な保育の現場の実際と課題 第3回：乳児の発達と保育（0歳児前半） ー誕生時の身体的特徴、原始反射、新生児微笑、感情の分化と認知機能の発達ー 第4回：乳児の発達と保育（0歳児後半） ー身体機能と運動、首のすわりからつかまり立ちまで、泣くことの意味、手の動きが成長を伝えるー 第5回：乳児の発達と保育（1歳児） ー言葉を獲得するしくみ、言葉から心の声を聞く、身体機能と運動、歩行開始から繋がる探索行動の意味と遊びの援助ー 第6回：乳児の発達と保育（2歳児） ー身体機能と運動、活発な全身運動、生活面及び排泄の自立、事故予防と対策　保育計画・記録・評価の意義ー 第7回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～アタッチメントの成り立ち） ーアタッチメント理論　関係性の発達、分離固体化理論、見えない母親像の確立、コミュニケーションの基礎ー 第8回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～自己肯定感を育む） ー自尊感情と自己肯定感、甘えと甘やかし、子どもの安心できる保育の場の創出ー 第9回：乳児の生活と保育（栄養の特徴） ー母乳栄養のメリット、哺乳行動、食べる機能の発達　咀嚼と嚥下ー 第10回：乳児の生活と保育（人工栄養と離乳食） ー人工栄養の特徴、離乳期の発達段階と食事の形態、授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食ー 第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴） ー遊びの意味、遊びを通して得る生きる力の基礎、経験の連続性と協同　保育者の役割　職員間の連携・協働ー 第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方） ー発達に即したおもちゃ、衛生管理と安全管理ー 第13回：乳児の生活と保育（生活リズム） ー睡眠の特徴、睡眠と発達の関係、現代社会における子供たちの生活リズムの実際、保護者との連携・協働、子育て支援ー 第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類） ー睡眠環境の設定の実際、乳幼児突然死症候群、睡眠時の安全管理と危機管理、衣類の選び方ー 第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）・まとめ ーおむつ交換のねらい、トイレットトレーニング、清潔の重要性と介助の仕方及び留意点 各連携機関との連携・協働　これからの乳児保育に求めるものー 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2304 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　50%　授業内容全般の理解度を評価す ③平常点　30%　授業態度及び課題への取り組む姿勢を評価する。 ④その他　20%　課題、発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他　2009 0歳の赤ちゃんの気持ちがわかる本（講談社）　小西行郎 0～3歳能力を育てる　好奇心を育てる（主婦の友社）汐見稔幸 0・1・2歳児マニュアル（ひかりのくに）川原佐公　編著
学生へのメッセージ	赤ちゃんは、やわらかくて、あたたかくて、ミルクのにおいがして… 見ているだけでも幸せな気持ちになります。 でも、赤ちゃんはかわいいだけではなくて、さまざまな力を持っています。 そんな赤ちゃんの魅力を伝えられたらと、思っています。
研究室（訪問先等）	ゆうゆう保育園
電話番号	028ー674-8500
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅰ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育現場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけている。」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見や口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」と「6. 自学自習・自主自律を実践できる。」と「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「9. 理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている。」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所を読んでから授業に臨むこと。また、実習や日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心をもち、実践的に学びを深めること。各回の予習には30分かかると予想される。 また、復習として、テキストの授業内容箇所および配布した資料を熟読すること。日常での交流観察を通して、授業内容との省察に努めること。各回の復習には、15分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業概要 これまでの乳児保育の歴史的変遷及び、担ってきた役割を踏まえたうえで、多様化社会におけるこれからの乳児保育のあり方について学び、理解し、実践へと繋げていく。 視聴覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていくと共に、職員間の協働や関係機関との連携の必要性についても学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明した後、内容に即した視聴覚教材を使用する。 ③アクティブラーニング グループ学習、体験学習を行う。ミニレポートによる理解度確認。コメントシートの使用。 グループごとに、模擬離乳食を試食したり、互いに食べさせ合うことで嚥下や咀嚼の体感をし学びや気づきについて、プレゼンテーションする。 月齢に即した発達や援助の方法を踏まえたうえで、保護者支援の観点からも言及することの出来るような模擬連絡ノートの記入を行い実践力を身につける。 模擬保育室において、実際におもちゃに触れ遊び、環境設定やおもちゃの選び方について学ぶ。

	以上、自ら積極的に学び、参加する姿勢を求める。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった時は、その都度対応し全体にフィードバックする。 ミニレポート、コメントシートについて、総評を行う。 [授業計画] 第1回：乳児保育の意義と役割（歴史的変遷を踏まえて） ー家族形態の変化と多様化、出生児数の減少、社会環境の変化、育児不安ー 第2回：保育所、乳児院、小規模保育施設等の多様な保育の現場の実際と課題 第3回：乳児の発達と保育（0歳児前半） ー誕生時の身体的特徴、原始反射、新生児微笑、感情の分化と認知機能の発達ー 第4回：乳児の発達と保育（0歳児後半） ー身体機能と運動、首のすわりからつかまり立ちまで、泣くことの意味、手の動きが成長を伝えるー 第5回：乳児の発達と保育（1歳児） ー言葉を獲得するしくみ、言葉から心の声を聞く、身体機能と運動、歩行開始から繋がる探索行動の意味と遊びの援助ー 第6回：乳児の発達と保育（2歳児） ー身体機能と運動、活発な全身運動、生活面及び排泄の自立、事故予防と対策　保育計画・記録・評価の意義ー 第7回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～アタッチメントの成り立ち） ーアタッチメント理論　関係性の発達、分離固体化理論、見えない母親像の確立、コミュニケーションの基礎ー 第8回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～自己肯定感を育む） ー自尊感情と自己肯定感、甘えと甘やかし、子どもの安心できる保育の場の創出ー 第9回：乳児の生活と保育（栄養の特徴） ー母乳栄養のメリット、哺乳行動、食べる機能の発達　咀嚼と嚥下ー 第10回：乳児の生活と保育（人工栄養と離乳食） ー人工栄養の特徴、離乳期の発達段階と食事の形態、授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食ー 第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴） ー遊びの意味、遊びを通して得る生きる力の基礎、経験の連続性と協同　保育者の役割　職員間の連携・協働ー 第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方） ー発達に即したおもちゃ、衛生管理と安全管理ー 第13回：乳児の生活と保育（生活リズム） ー睡眠の特徴、睡眠と発達の関係、現代社会における子供たちの生活リズムの実際、保護者との連携・協働、子育て支援ー 第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類） ー睡眠環境の設定の実際、乳幼児突然死症候群、睡眠時の安全管理と危機管理、衣類の選び方ー 第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）・まとめ ーおむつ交換のねらい、トイレットトレーニング、清潔の重要性と介助の仕方及び留意点 各連携機関との連携・協働　これからの乳児保育に求めるものー 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2304 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　50%　授業内容全般の理解度を評価す ③平常点　30%　授業態度及び課題への取り組む姿勢を評価する。 ④その他　20%　課題、発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他　2009 0歳の赤ちゃんの気持ちがわかる本（講談社）　小西行郎 0～3歳能力を育てる　好奇心を育てる（主婦の友社）汐見稔幸
学生へのメッセージ	赤ちゃんは、やわらかくて、あたたかくて、ミルクのにおいがして… 見ているだけでも幸せな気持ちになります。 でも、赤ちゃんはかわいいだけではなくて、さまざまな力を持っています。 そんな赤ちゃんの魅力を伝えられたらと、思っています。
研究室（訪問先等）	ゆうゆう保育園
電話番号	028ー674-8500
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅰ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育現場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけている。」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見や口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」と「6. 自学自習・自主自律を実践できる。」と「8. 地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「9. 理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている。」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所を読んでから授業に臨むこと。また、実習や日常での交流観察を通して、乳児の行動特徴への関心をもち、実践的に学びを深めること。各回の予習には30分かかると予想される。 また、復習として、テキストの授業内容箇所および配布した資料を熟読すること。日常での交流観察を通して、授業内容との省察に努めること。各回の復習には、15分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業概要 これまでの乳児保育の歴史的変遷及び、担ってきた役割を踏まえたうえで、多様化社会におけるこれからの乳児保育のあり方について学び、理解し、実践へと繋げていく。 視聴覚教材等を活用しながら、発達の特徴を理解するとともに、乳児の個別性の理解をも深める。また乳児の発達に即した作品の観賞や、嚥下や咀嚼の実習により、体感を通しての理解を深める。さらに具体的事例を通して、実践の場での課題を明らかにしていくと共に、職員間の協働や関係機関との連携の必要性についても学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明した後、内容に即した視聴覚教材を使用する。 ③アクティブラーニング グループ学習、体験学習を行う。ミニレポートによる理解度確認。コメントシートの使用。 グループごとに、模擬離乳食を試食したり、互いに食べさせ合うことで嚥下や咀嚼の体感をし学びや気づきについて、プレゼンテーションする。 月齢に即した発達や援助の方法を踏まえたうえで、保護者支援の観点からも言及することの出来るような模擬連絡ノートの記入を行い実践力を身につける。 模擬保育室において、実際におもちゃに触れ遊び、環境設定やおもちゃの選び方について学ぶ。

	以上、自ら積極的に学び、参加する姿勢を求める。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった時は、その都度対応し全体にフィードバックする。 ミニレポート、コメントシートについて、総評を行う。 【授業計画】 第1回：乳児保育の意義と役割（歴史的変遷を踏まえて） ー家族形態の変化と多様化、出生児数の減少、社会環境の変化、育児不安ー 第2回：保育所、乳児院、小規模保育施設等の多様な保育の現場の実際と課題 第3回：乳児の発達と保育（0歳児前半） ー誕生時の身体的特徴、原始反射、新生児微笑、感情の分化と認知機能の発達ー 第4回：乳児の発達と保育（0歳児後半） ー身体機能と運動、首のすわりからつかまり立ちまで、泣くことの意味、手の動きが成長を伝えるー 第5回：乳児の発達と保育（1歳児） ー言葉を獲得するしくみ、言葉から心の声を聞く、身体機能と運動、歩行開始から繋がる探索行動の意味と遊びの援助ー 第6回：乳児の発達と保育（2歳児） ー身体機能と運動、活発な全身運動、生活面及び排泄の自立、事故予防と対策　保育計画・記録・評価の意義ー 第7回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～アタッチメントの成り立ち） ーアタッチメント理論　関係性の発達、分離固体化理論、見えない母親像の確立、コミュニケーションの基礎ー 第8回：乳児の行動と保育（愛着と信頼～自己肯定感を育む） ー自尊感情と自己肯定感、甘えと甘やかし、子どもの安心できる保育の場の創出ー 第9回：乳児の生活と保育（栄養の特徴） ー母乳栄養のメリット、哺乳行動、食べる機能の発達　咀嚼と嚥下ー 第10回：乳児の生活と保育（人工栄養と離乳食） ー人工栄養の特徴、離乳期の発達段階と食事の形態、授乳・離乳の支援ガイドにそった離乳食ー 第11回：乳児の生活と保育（遊びの特徴） ー遊びの意味、遊びを通して得る生きる力の基礎、経験の連続性と協同　保育者の役割　職員間の連携・協働ー 第12回：乳児の生活と保育（玩具の選び方） ー発達に即したおもちゃ、衛生管理と安全管理ー 第13回：乳児の生活と保育（生活リズム） ー睡眠の特徴、睡眠と発達の関係、現代社会における子供たちの生活リズムの実際、保護者との連携・協働、子育て支援ー 第14回：乳児の生活と保育（睡眠環境、衣類） ー睡眠環境の設定の実際、乳幼児突然死症候群、睡眠時の安全管理と危機管理、衣類の選び方ー 第15回：乳児の生活と保育（排泄、清潔）・まとめ ーおむつ交換のねらい、トイレットトレーニング、清潔の重要性と介助の仕方及び留意点 各連携機関との連携・協働　これからの乳児保育に求めるものー 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2304 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　50%　授業内容全般の理解度を評価す ③平常点　30%　授業態度及び課題への取り組む姿勢を評価する。 ④その他　20%　課題、発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	乳児保育第10版（南山堂）石原栄子他　2009 0歳の赤ちゃんの気持ちがわかる本（講談社）　小西行郎 0～3歳能力を育てる　好奇心を育てる（主婦の友社）汐見稔幸
学生へのメッセージ	赤ちゃんは、やわらかくて、あたたかくて、ミルクのにおいがして… 見ているだけでも幸せな気持ちになります。 でも、赤ちゃんはかわいいだけではなくて、さまざまな力を持っています。 そんな赤ちゃんの魅力を伝えられたらと、思っています。
研究室（訪問先等）	ゆうゆう保育園
電話番号	028ー674-8500
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 ２．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、説明できる。 ３．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、説明できる。 ４．上記の１．～３．を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解し、実践できる。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児を指導できる。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる。」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として、テキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了及び、演習課題の準備をすること。また、地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深めること。各回の予習には、35分かかると予想される。 また、復習として、授業内容及び配布した資料を熟読すること。各回の復習には10分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 ３歳未満児の発育・発達の過程等に即した生活や遊びと保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。乳児保育の基本的な考え方を踏まえ、指導計画の作成、援助や関わり、配慮の実際について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明したのち、グループワークを行う。 ③アクティブラーニング グループ学習、模擬保育、調査学習、学生によるプレゼンテーションを実施する。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった場合には、翌週授業の最初で取り上げ、全体にフィードバックする。 授業計画 第１回：乳児保育の基本 ー子どもと保育者との関係性について、乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容、応答的な関わりと言葉の育ち、モノをめぐって発達していく他者との関係性ー 第２回：子どもの生活の流れ（０歳児クラス）

	ー０歳児のデイリープログラムについて、乳児にふさわしい生活とは、一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践ー 第３回：子どもの保育環境（０歳児クラス） ー指針からみる保育環境、乳児が過ごしやすい空間、おもちゃ、家庭的な環境の必要性、乳児の発達をうながす玩具・保育者の関わりー 第４回：子どもの援助の実際（０歳児クラス） ー生活の援助の実際、遊びの援助の実際、「保育のねらい」と保育者の配慮、乳児の主体性を考える、０歳児クラスの食事場面をイメージして「ねらい」「内容」「配慮事項」を考えるー 第５回：子どもの生活の流れ（１歳児クラス） ーデイリープログラムからみる１歳児クラスの生活の流れ、朝の視診について、家庭との連携、生活リズムの情報共有、トイレットトレーニングにおける家庭との連携ー 第６回：子どもの保育環境（１歳児クラス） ー環境の整備、手作りおもちゃの製作ー 第７回：子どもの援助の実際（１歳児クラス） ー生活の援助、遊びの援助、排泄の自立について、着脱の動作を分割して捉え必要な援助を考える、かみつきについてー 第８回：子どもの生活の流れ（２歳児クラス） ー２歳児クラスのデイリープログラム、事例から一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者の関わりについて考える、２歳児の発達課題と保育者のかかわり方ー 第９回：子どもの保育環境（２歳児クラス） ー玩具のそろえ方のポイント、見立て遊び、手指の発達を促す遊び、子どもの探索活動を促し遊び込むことができる安全で活動しやすい環境を考えるー 第１０回：子どもの援助の実際（２歳児クラス） ー手指の発達を促す遊びと生活習慣、２歳児の発達を促す遊びを考える、自分で排泄しようとするための適切な援助を考える、２歳児の育みたい資質・能力についてー 第１１回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 ー子どもの心身の健康・安全と情緒の安定に関する保育所保育指針の内容、子どもの死亡及び事故の現状と課題、子どもの健康支援、情緒の発達、災害の備えについて、発達の段階によって起きそうな事故を予測するー 第１２回：集団での生活における配慮 ー集団保育と個々への援助、保育の実施にかかわる配慮事項、健康と安全に対する知識・技能の必要性、保育者同士と他職種との連携、保護者との連携、個別の計画の重要性、家庭との連携の手段、的確な情報収集による個別の指導計画の作成ー 第１３回：環境の変化や移行に対する配慮 ー移行とは何か、３歳未満の子どもたちの移行の具体例、環境の変化や移行に対する配慮とは、移行をする際に配慮したいことー 第１４回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 ー指導計画とは、実際の指導計画から学ぶ、保育の振り返り、次の計画や実践に活かせる記録ー 第１５回：個別的な指導計画と集団の指導計画 ー個別的な計画、集団の計画、個別の計画作成における保護者との連携ー 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育士）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2404 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　30%　授業内容全般の理解度を評価する。 ③平常点　10%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　60%　課題・発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館　2007） 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』児童育成協会（中央法規　2019） 『乳児保育Ⅱ　一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』尾野明美ほか（萌文書林　2018）
研究室（訪問先等）	木曜日が出講日です。
電話番号	028-667-7111（代）
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 ２．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、説明できる。 ３．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、説明できる。 ４．上記の１．～３．を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解し、実践できる。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児を指導できる。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる。」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として、テキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了及び、演習課題の準備をすること。また、地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深めること。各回の予習には、35分かかると予想される。 また、復習として、授業内容及び配布した資料を熟読すること。各回の復習には10分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 ３歳未満児の発育・発達の過程等に即した生活や遊びと保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。乳児保育の基本的な考え方を踏まえ、指導計画の作成、援助や関わり、配慮の実際について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明したのち、グループワークを行う。 ③アクティブラーニング グループ学習、模擬保育、調査学習、学生によるプレゼンテーションを実施する。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった場合には、翌週授業の最初で取り上げ、全体にフィードバックする。 授業計画 第１回：乳児保育の基本 ー子どもと保育者との関係性について、乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容、応答的な関わりと言葉の育ち、モノをめぐって発達していく他者との関係性ー 第２回：子どもの生活の流れ（０歳児クラス）

	－０歳児のデイリープログラムについて、乳児にふさわしい生活とは、一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践－ 第３回：子どもの保育環境（０歳児クラス） －指針からみる保育環境、乳児が過ごしやすい空間、おもちゃ、家庭的な環境の必要性、乳児の発達をうながす玩具・保育者の関わり－ 第４回：子どもの援助の実際（０歳児クラス） －生活の援助の実際、遊びの援助の実際、「保育のねらい」と保育者の配慮、乳児の主体性を考える、０歳児クラスの食事場面をイメージして「ねらい」「内容」「配慮事項」を考える－ 第５回：子どもの生活の流れ（１歳児クラス） －デイリープログラムからみる１歳児クラスの生活の流れ、朝の視診について、家庭との連携、生活リズムの情報共有、トイレットトレーニングにおける家庭との連携― 第６回：子どもの保育環境（１歳児クラス） －環境の整備、手作りおもちゃの製作－ 第７回：子どもの援助の実際（１歳児クラス） －生活の援助、遊びの援助、排泄の自立について、着脱の動作を分割して捉え必要な援助を考える、かみつきについて－ 第８回：子どもの生活の流れ（２歳児クラス） －２歳児クラスのデイリープログラム、事例から一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者の関わりについて考える、２歳児の発達課題と保育者のかかわり方－ 第９回：子どもの保育環境（２歳児クラス） －玩具のそろえ方のポイント、見立て遊び、手指の発達を促す遊び、子どもの探索活動を促し遊び込むことができる安全で活動しやすい環境を考える－ 第１０回：子どもの援助の実際（２歳児クラス） －手指の発達を促す遊びと生活習慣、２歳児の発達を促す遊びを考える、自分で排泄しようとするための適切な援助を考える、２歳児の育みたい資質・能力について－ 第１１回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 －子どもの心身の健康・安全と情緒の安定に関する保育所保育指針の内容、子どもの死亡及び事故の現状と課題、子どもの健康支援、情緒の発達、災害の備えについて、発達の段階によって起きそうな事故を予測する－ 第１２回：集団での生活における配慮 －集団保育と個々への援助、保育の実施にかかわる配慮事項、健康と安全に対する知識・技能の必要性、保育者同士と他職種との連携、保護者との連携、個別の計画の重要性、家庭との連携の手段、的確な情報収集による個別の指導計画の作成－ 第１３回：環境の変化や移行に対する配慮 －移行とは何か、３歳未満の子どもたちの移行の具体例、環境の変化や移行に対する配慮とは、移行をする際に配慮したいこと－ 第１４回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 －指導計画とは、実際の指導計画から学ぶ、保育の振り返り、次の計画や実践に活かせる記録－ 第１５回：個別的な指導計画と集団の指導計画 －個別的な計画、集団の計画、個別の計画作成における保護者との連携－ 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育士）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2404 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　30%　授業内容全般の理解度を評価する。 ③平常点　10%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　60%　課題・発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館　2007） 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』児童育成協会（中央法規　2019） 『乳児保育Ⅱ　一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』尾野明美ほか（萌文書林　2018）
研究室（訪問先等）	木曜日が出講日です。
電話番号	028-667-7111（代）
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 野中　悦子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 ２．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解し、説明できる。 ３．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、説明できる。 ４．上記の１．～３．を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解し、実践できる。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5.音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児を指導できる。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる。」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「8.地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる。」と「10.積極的にボランティア活動に取り組むことができる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として、テキスト及び授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了及び、演習課題の準備をすること。また、地域の子育て支援活動に参加し、実践的に学びを深めること。各回の予習には、35分かかると予想される。 また、復習として、授業内容及び配布した資料を熟読すること。各回の復習には10分かかると想定される。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 ３歳未満児の発育・発達の過程等に即した生活や遊びと保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。乳児保育の基本的な考え方を踏まえ、指導計画の作成、援助や関わり、配慮の実際について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と資料印刷物を活用する。 ②授業形態 講義形式で理論や方法を説明したのち、グループワークを行う。 ③アクティブラーニング グループ学習、模擬保育、調査学習、学生によるプレゼンテーションを実施する。 ④課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関する質問等があった場合には、翌週授業の最初で取り上げ、全体にフィードバックする。 授業計画 第１回：乳児保育の基本 ー子どもと保育者との関係性について、乳児（0歳）と1歳以上3歳未満児の保育内容、応答的な関わりと言葉の育ち、モノをめぐって発達していく他者との関係性ー 第２回：子どもの生活の流れ（０歳児クラス）

	ー０歳児のデイリープログラムについて、乳児にふさわしい生活とは、一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践ー 第３回：子どもの保育環境（０歳児クラス） ー指針からみる保育環境、乳児が過ごしやすい空間、おもちゃ、家庭的な環境の必要性、乳児の発達をうながす玩具・保育者の関わりー 第４回：子どもの援助の実際（０歳児クラス） ー生活の援助の実際、遊びの援助の実際、「保育のねらい」と保育者の配慮、乳児の主体性を考える、０歳児クラスの食事場面をイメージして「ねらい」「内容」「配慮事項」を考えるー 第５回：子どもの生活の流れ（１歳児クラス） ーデイリープログラムからみる１歳児クラスの生活の流れ、朝の視診について、家庭との連携、生活リズムの情報共有、トイレットトレーニングにおける家庭との連携― 第６回：子どもの保育環境（１歳児クラス） ー環境の整備、手作りおもちゃの製作ー 第７回：子どもの援助の実際（１歳児クラス） ー生活の援助、遊びの援助、排泄の自立について、着脱の動作を分割して捉え必要な援助を考える、かみつきについてー 第８回：子どもの生活の流れ（２歳児クラス） ー２歳児クラスのデイリープログラム、事例から一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者の関わりについて考える、２歳児の発達課題と保育者のかかわり方ー 第９回：子どもの保育環境（２歳児クラス） ー玩具のそろえ方のポイント、見立て遊び、手指の発達を促す遊び、子どもの探索活動を促し遊び込むことができる安全で活動しやすい環境を考えるー 第１０回：子どもの援助の実際（２歳児クラス） ー手指の発達を促す遊びと生活習慣、２歳児の発達を促す遊びを考える、自分で排泄しようとするための適切な援助を考える、２歳児の育みたい資質・能力についてー 第１１回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 ー子どもの心身の健康・安全と情緒の安定に関する保育所保育指針の内容、子どもの死亡及び事故の現状と課題、子どもの健康支援、情緒の発達、災害の備えについて、発達の段階によって起きそうな事故を予測するー 第１２回：集団での生活における配慮 ー集団保育と個々への援助、保育の実施にかかわる配慮事項、健康と安全に対する知識・技能の必要性、保育者同士と他職種との連携、保護者との連携、個別の計画の重要性、家庭との連携の手段、的確な情報収集による個別の指導計画の作成ー 第１３回：環境の変化や移行に対する配慮 ー移行とは何か、３歳未満の子どもたちの移行の具体例、環境の変化や移行に対する配慮とは、移行をする際に配慮したいことー 第１４回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 ー指導計画とは、実際の指導計画から学ぶ、保育の振り返り、次の計画や実践に活かせる記録ー 第１５回：個別的な指導計画と集団の指導計画 ー個別的な計画、集団の計画、個別の計画作成における保護者との連携ー 期末試験は実施しない
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育士）が担当する。 ②科目のナンバリング SUN2404 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　30%　授業内容全般の理解度を評価する。 ③平常点　10%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　60%　課題・発表について評価する。
教科書	教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。
参考書	『乳児保育の基本』汐見稔幸ほか（フレーベル館　2007） 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』児童育成協会（中央法規　2019） 『乳児保育Ⅱ　一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践』尾野明美ほか（萌文書林　2018）
研究室（訪問先等）	木曜日が出講日です。
電話番号	028-667-7111（代）
授業用E-mail	etsuko_nonaka@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅰ（施設） AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野 善教	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	施設実習の対象となる施設の種別及び目的、利用対象者、機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」を達成するための科目である。
準備学習	講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。 2年次に行う施設実習に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり理解し、復習を行いノートにまとめること。この復習には15分以上のかかると想定される。また、このノートづくりを通し、次回授業とのつながりを意識すること。予習には教科書の下読みを含め30分以上を想定している。これらの復習・予習を行ったうえで授業に臨むこと。
授業の概要及び授業計画	1) 授業の概要 保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。 2)授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物（プリント教材）、視聴覚メディアを活用する。これまでに実習経験のない「施設」での実習についてのイメージの参考となるよう、DVDの視聴を適宜採り入れる。 ②授業形態 講義形式を中心とする。グループワークでは、実習中の態度等について、グループ内で意見をとりまとめ、発表していただきます。 ③アクティブラーニングの有無 実習中に起こりうる事例をテーマにグループでのディスカッションを経たまとめを発表する。 3)授業計画 第１回. ガイダンス（今後の予定/なぜ施設実習を行うのか） 第２回. 施設毎の実習内容の確認（１）：各実習機関の説明 第３回. 施設毎の実習内容の確認（２）：実習毎のグループワーク 第４回. 施設毎の実習内容の確認（３）：各グループの発表 第５回. 施設毎の実習内容の確認（４）：各グループの発表 第６回. 施設毎の事例紹介（１）児童養護関係施設（乳児院・児童養護施設） 第７回. 施設毎の事例紹介（２）自立支援関係施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設） 第８回. 施設毎の事例紹介（３）障害児者入所施設・児童発達支援センター

	第９回. 先輩のレポートから実習についての理解 第１０回. 実習日誌の記入方法 第１１回. 実習目標の設定 第１２回. 施設見学の目標設定 第１３回. 施設見学の振り返り 第１４回. 事前オリエンテーションに向けて 第１５回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて ④課題に対するフィードバックの方法 授業についての要望がある場合には、授業前後の休み時間および、研究室にて受け付け、担当教員にて検討のうえ、口頭にてお返事いたします。小テストを行った場合には採点後速やかに解説を行います。
特記事項等	①本科目は教員2名が担当する、内１名は、教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング SPR2301 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	期末レポート　４０% グループ発表　４０% 平常点（授業中の指名による発言等によって評価する）　１０% その他（小テストや課題等による評価）　１０% により総合的に評価をする。
教科書	立花直樹（編著）『施設実習』　ミネルヴァ書房 ※補助教材としてプリント資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	グループワークや発表を行うなど、皆さんが主体的に学ぶ内容となっています。 授業計画を参照し、不明な点は事前に担当教員に確認してください。 保育園や幼稚園とは異なる機関への実習となるため、事前学習を怠ることなく、実習を迎えましょう。 実習日誌の書き方、事前オリエンテーションの目標設定など実習に関する内容を多く盛り込んでいます。
研究室（訪問先等）	矢野　中央研究棟　2階　220研究室 久野　中央研究棟　2階　213研究室 ※可能な限り、事前連絡後に研究室に来てください。 ※急な際は、直接研究室に来てください
電話番号	矢野研究室：028-670-3688
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 1	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅰ（施設） CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野 善教	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	施設実習の対象となる施設の種別及び目的、利用対象者、機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」を達成するための科目である。
準備学習	講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。 2年次に行う施設実習に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり理解し、復習を行いノートにまとめること。この復習には15分以上のかかると想定される。また、このノートづくりを通し、次回授業とのつながりを意識すること。予習には教科書の下読みを含め30分以上を想定している。これらの復習・予習を行ったうえで授業に臨むこと。
授業の概要及び授業計画	1) 授業の概要 保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。 2)授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物（プリント教材）、視聴覚メディアを活用する。これまでに実習経験のない「施設」での実習についてのイメージの参考となるよう、DVDの視聴を適宜採り入れる。 ②授業形態 講義形式を中心とする。グループワークでは、実習中の態度等について、グループ内で意見をとりまとめ、発表していただきます。 ③アクティブラーニングの有無 実習中に起こりうる事例をテーマにグループでのディスカッションを経たまとめを発表する。 3)授業計画 第１回. ガイダンス（今後の予定/なぜ施設実習を行うのか） 第２回. 施設毎の実習内容の確認（１）：各実習機関の説明 第３回. 施設毎の実習内容の確認（２）：実習毎のグループワーク 第４回. 施設毎の実習内容の確認（３）：各グループの発表 第５回. 施設毎の実習内容の確認（４）：各グループの発表 第６回. 施設毎の事例紹介（１）児童養護関係施設（乳児院・児童養護施設） 第７回. 施設毎の事例紹介（２）自立支援関係施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設） 第８回. 施設毎の事例紹介（３）障害児者入所施設・児童発達支援センター

	第９回. 先輩のレポートから実習についての理解 第１０回. 実習日誌の記入方法 第１１回. 実習目標の設定 第１２回. 施設見学の目標設定 第１３回. 施設見学の振り返り 第１４回. 事前オリエンテーションに向けて 第１５回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて ④課題に対するフィードバックの方法 授業についての要望がある場合には、授業前後の休み時間および、研究室にて受け付け、担当教員にて検討のうえ、口頭にてお返事いたします。小テストを行った場合には採点後速やかに解説を行います。
特記事項等	①本科目は教員2名が担当する、内１名は、教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング SPR2301 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	期末レポート　４０% グループ発表　４０% 平常点（授業中の指名による発言等によって評価する）　１０% その他（小テストや課題等による評価）　１０% により総合的に評価をする。
教科書	立花直樹（編著）『施設実習』　ミネルヴァ書房 ※補助教材としてプリント資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	グループワークや発表を行うなど、皆さんが主体的に学ぶ内容となっています。 授業計画を参照し、不明な点は事前に担当教員に確認してください。 保育園や幼稚園とは異なる機関への実習となるため、事前学習を怠ることなく、実習を迎えましょう。 実習日誌の書き方、事前オリエンテーションの目標設定など実習に関する内容を多く盛り込んでいます。
研究室（訪問先等）	矢野　中央研究棟　2階　220研究室 久野　中央研究棟　2階　213研究室 ※可能な限り、事前連絡後に研究室に来てください。 ※急な際は、直接研究室に来てください
電話番号	矢野研究室：028-670-3688
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 1	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅰ（施設） EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野 善教	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	施設実習の対象となる施設の種別及び目的、利用対象者、機能をについて学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解できる能力を身につける。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」を達成するための科目である。
準備学習	講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられている。普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努める。 2年次に行う施設実習に欠かせない内容になるので、しっかりノートを作成していくこと。配布するプリントは、教科書の内容を補足するものなので、ノート・教科書・プリントの対応部分をしっかり理解し、復習を行いノートにまとめること。この復習には15分以上のかかると想定される。また、このノートづくりを通し、次回授業とのつながりを意識すること。予習には教科書の下読みを含め30分以上を想定している。これらの復習・予習を行ったうえで授業に臨むこと。
授業の概要及び授業計画	1) 授業の概要 保育実習実施基準に規定されている実習対象施設についての、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について解説する。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。 2)授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物（プリント教材）、視聴覚メディアを活用する。これまでに実習経験のない「施設」での実習についてのイメージの参考となるよう、DVDの視聴を適宜採り入れる。 ②授業形態 講義形式を中心とする。グループワークでは、実習中の態度等について、グループ内で意見をとりまとめ、発表していただきます。 ③アクティブラーニングの有無 実習中に起こりうる事例をテーマにグループでのディスカッションを経たまとめを発表する。 3)授業計画 第１回. ガイダンス（今後の予定/なぜ施設実習を行うのか） 第２回. 施設毎の実習内容の確認（１）：各実習機関の説明 第３回. 施設毎の実習内容の確認（２）：実習毎のグループワーク 第４回. 施設毎の実習内容の確認（３）：各グループの発表 第５回. 施設毎の実習内容の確認（４）：各グループの発表 第６回. 施設毎の事例紹介（１）児童養護関係施設（乳児院・児童養護施設） 第７回. 施設毎の事例紹介（２）自立支援関係施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設） 第８回. 施設毎の事例紹介（３）障害児者入所施設・児童発達支援センター

	第９回. 先輩のレポートから実習についての理解 第１０回. 実習日誌の記入方法 第１１回. 実習目標の設定 第１２回. 施設見学の目標設定 第１３回. 施設見学の振り返り 第１４回. 事前オリエンテーションに向けて 第１５回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて ④課題に対するフィードバックの方法 授業についての要望がある場合には、授業前後の休み時間および、研究室にて受け付け、担当教員にて検討のうえ、口頭にてお返事いたします。小テストを行った場合には採点後速やかに解説を行います。
特記事項等	①本科目は教員2名が担当する、内１名は、教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング SPR2301 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	期末レポート　４０% グループ発表　４０% 平常点（授業中の指名による発言等によって評価する）　１０% その他（小テストや課題等による評価）　１０% により総合的に評価をする。
教科書	立花直樹（編著）『施設実習』　ミネルヴァ書房 ※補助教材としてプリント資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。
学生へのメッセージ	グループワークや発表を行うなど、皆さんが主体的に学ぶ内容となっています。 授業計画を参照し、不明な点は事前に担当教員に確認してください。 保育園や幼稚園とは異なる機関への実習となるため、事前学習を怠ることなく、実習を迎えましょう。 実習日誌の書き方、事前オリエンテーションの目標設定など実習に関する内容を多く盛り込んでいます。
研究室（訪問先等）	矢野　中央研究棟　2階　220研究室 久野　中央研究棟　2階　213研究室 ※可能な限り、事前連絡後に研究室に来てください。 ※急な際は、直接研究室に来てください
電話番号	矢野研究室：028-670-3688
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 1	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅲ		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	「保育実習Ⅲ」の対象となる施設の種別及び目的、利用対象者、機能について学ぶ。施設の利用者の日常と施設保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正しく理解する。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。 　また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」を達成するための科目である。
準備学習	１年時に履修した「社会福祉」「子ども家庭支援論」、２年時の「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」の知識が重要になりますので、これらの科目（特に、１年時配当科目）を復習してください。 また、講義で学ぶ施設に関連する施策やその他の出来事は、新聞やニュース等でたびたび採りあげられていますので、普段から意識して情報収集をし、施設についての最新動向を把握するよう努めてください。さらに、希望する実習施設についての情報を収集し、まとめる。この復習時間は30分程度を要する。また、次回の授業については教科書の該当箇所を含めて指示をするので、予習として目を通しておくと良いだろう。予習のための時間は20分を想定している。
授業の概要及び授業計画	①授業の概要 実習の目的・要点を理解した上で、保育実習実施基準に規定されている「保育実習Ⅲ」の実習対象施設について、法的根拠、定義、設置主体、対象者、業務について確認する。本学では「保育実習Ⅲ」での実習施設は自分で選択することができるので、実習施設の選定ー依頼ー決定まで過程を指導する。また、日誌の記録方法を確認するなど、実習にあたって必要な準備をすすめていく。施設についての正しい理解は、本実習に際しての準備や心構え、さらには不安の軽減に大きく影響する。受講生各自が資格取得に向けての高い意識のもと、不明な点は積極的に質問するなどして講義に臨むこと。 ②授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、配布印刷物（プリント資料）、視聴覚メディアなどを併用する。 ②授業形態 　講義形式、情報検索、実習希望先施設の概要まとめなど ③アクティブラーニングの有無 　「保育実習Ⅲ」の実習先を自ら調査、事前学習し、決定していく過程において、教科書、「施設ホームページ」等を充分に参照・理解し、実習生として学ぶ内容・実習生としての態度等を整理・発表をする。発表においては、受講生からの意見や感想を得ることで、自らの理解を深いものする。 ④課題に対するフィードバックの方法 　施設の法的根拠、利用対象、役割をまとめる過程において、適宜、訂正・補足を行っていく。また、小テストは採点後いったん返却し、誤回答についての解説を授業内にて行う。 3) 授業計画 第１回. ガイダンス（今後の予定/なぜ施設実習を行うのか） 第２回. 施設毎の実習内容の確認（１）：各実習機関の説明

	第３回. 施設毎の実習内容の確認（２）：実習毎のグループワーク 第４回. 施設毎の実習内容の確認（３）：各グループの発表 第５回. 施設毎の実習内容の確認（４）：各グループの発表 第６回. 施設毎の事例紹介（１）児童養護関係施設（乳児院・児童養護施設） 第７回. 施設毎の事例紹介（２）自立支援関係施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設） 第８回. 施設毎の事例紹介（３）障害児者入所施設・児童発達支援センター 第９回. 先輩のレポートから実習についての理解 第１０回. 実習日誌の記入方法 第１１回. 実習目標の設定 第１２回. 施設見学の目標設定 第１３回. 施設見学の振り返り 第１４回. 事前オリエンテーションに向けて 第１５回. 実習の心構えと態度、コミュニケーションについて 授業では講義による解説をもとに、自身で県内の実習対象施設を検索し実習先候補を絞っていく。
特記事項等	①実務経験のある教員 ２名体制。内１名は、教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング SPR2306 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　０％（期末レポートを定期試験に替える） ②期末レポート　８０％（事前学習報告等） ③平常点　２０％（授業内にて小テストを実施） ④その他　０％ により総合的に評価をする。 事前学習報告(80%) 小テスト等(20%) 以上を総合的に評価します
教科書	立花直樹(編著)『施設実習』ミネルヴァ書房
参考書	プリント資料を配布する。
学生へのメッセージ	保育実習Ⅲは施設に特化した実習になりますので、保育実習指導Ⅰ（施設）で学んだことをより深めていきます。 より専門的な内容となりますので、分からないことは積極的に確認するようにしてください。 少人数での授業となりますので、楽しく学んでいきましょう。
研究室（訪問先等）	矢野　中央研究棟２階　２２０研究室 久野　中央研究棟２階　２１３研究室 ※可能な限り、事前に予約の連絡を入れ、来室してください。 ※急な質問等は研究室に来てください。
電話番号	矢野：028-670-3688
準備学習の内容	日常のニュースや新聞等を確認して、最新情報に対する意識を持ってください。
授業用E-mail	yoshinori@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 1	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	教育相談　ABC		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小栗　貴弘	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標とテーマ】 保育現場では，さまざまな教育上の問題に出会います。すでに，実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。本授業では，教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための，知識と技能について説明できるようになることを目標とします。 【学修成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 【ディプロマ・ポリシーとの関連】 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。
準備学習	【予習事項と，それに必要な時間】 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，参考文献等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。 【復習事項と，それに必要な時間】 また，復習として，レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。 復習した事項を中心に，毎回，授業の冒頭で小テストを行います。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 子どもへの支援では，支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で，具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では，基本的なカウンセリング技能を学んだ上で，どのように助言を行なったり，連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では，板書とICTを活用します。また，精神疾患や発達障害などについての事例を紹介します。 ②授業形態 主に講義形式で行います。授業の内容によって，グループワークを行います。 ③アクティブラーニングの有無 授業の冒頭で，小テスト（復習テスト）を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして，小テストを採点後，次回の授業時に返却し，解答の解説を行います。 【授業計画】 第１回　オリエンテーション（授業の進め方） 第２回　応用行動分析学の基礎 第３回　応用行動分析学の技法

	第４回　応用行動分析学の応用 第５回　行動療法の基礎 第６回　行動療法の技法・応用 第７回　ソーシャル・スキル・トレーニング　概論 第８回　ソーシャル・スキル・トレーニング　指導案作成 第９回　ソーシャル・スキル・トレーニング　リハーサルと指導案の修正 第10回　ソーシャル・スキル・トレーニング　発表 第11回　大人の心の問題（統合失調症・躁鬱など） 第12回　大人の心の問題（強迫性障害・摂食障害など） 第13回　子どもの心の問題（チック・排泄障害など） 第14回　子どもの心の問題（睡眠時異常行動障害・PTSDなど） 第15回　保護者との面接 期末試験
特記事項等	【実務経験のある教員】 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 【科目のナンバリング】 SOB2303 【その他の特記事項】 特になし。
成績評価法	【評価の内容・割合・基準】 授業での課題への取り組み姿勢や提出物，期末試験の成績等によって評価します。 ①　試験　40%　期末試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②　レポート　0%　実施しません。 ③　平常点　30%　授業態度や提出物を評価します。 ④　その他　30%　授業冒頭の小テストを評価します。
教科書	教科書は使用しません。毎回，プリントを配布します。
参考書	下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」　ミネルヴァ書房
学生へのメッセージ	保護者が自分よりも年上である，ということは往々にしてあります。それでも，みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。 そんなときに大きな武器となるのが，専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。 本授業では，それらの知識やスキルを身に付けて，保護者からの教育相談に適切に応じることで，目の前の「その子」を支援することを目指します。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　非常勤講師室 木曜日が出講日です。 上記の部屋あるいは授業の前後の教室で質問に応じます。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	oguri@atomi.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	教育相談　DEF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	木曜日	代表時限	５時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小栗　貴弘	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【到達目標とテーマ】 保育現場では，さまざまな教育上の問題に出会います。すでに，実習を通して出会っている学生もいるかもしれません。本授業では，教育相談を通して子どもの支援や保護者の支援を行なうための，知識と技能について説明できるようになることを目標とします。 【学修成果評価マトリックスとの関連】 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協働性が該当します。特に，②③を重視します。 【ディプロマ・ポリシーとの関連】 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している。」を達成するための科目です。
準備学習	【予習事項と，それに必要な時間】 毎回，授業の前に授業計画に示した内容について，参考文献等で該当する内容の予習をして授業に臨んでください。各回の予習には15分かかると予想されます。 【復習事項と，それに必要な時間】 また，復習として，レジュメおよび板書事項の見直しをしてください。各回の復習には30分かかると予想されます。 復習した事項を中心に，毎回，授業の冒頭で小テストを行います。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 子どもへの支援では，支援案を考える際の基礎となる理論を学んだ上で，具体的なアプローチを体験的に学びます。保護者への支援では，基本的なカウンセリング技能を学んだ上で，どのように助言を行なったり，連携を取っていくことが効果的なのかについて学びます。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では，板書とICTを活用します。また，精神疾患や発達障害などについての事例を紹介します。 ②授業形態 主に講義形式で行います。授業の内容によって，グループワークを行います。 ③アクティブラーニングの有無 授業の冒頭で，小テスト（復習テスト）を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして，小テストを採点後，次回の授業時に返却し，解答の解説を行います。 【授業計画】 第１回　オリエンテーション（授業の進め方） 第２回　応用行動分析学の基礎 第３回　応用行動分析学の技法

	第４回　応用行動分析学の応用 第５回　行動療法の基礎 第６回　行動療法の技法・応用 第７回　ソーシャル・スキル・トレーニング　概論 第８回　ソーシャル・スキル・トレーニング　指導案作成 第９回　ソーシャル・スキル・トレーニング　リハーサルと指導案の修正 第10回　ソーシャル・スキル・トレーニング　発表 第11回　大人の心の問題（統合失調症・躁鬱など） 第12回　大人の心の問題（強迫性障害・摂食障害など） 第13回　子どもの心の問題（チック・排泄障害など） 第14回　子どもの心の問題（睡眠時異常行動障害・PTSDなど） 第15回　保護者との面接 期末試験
特記事項等	【実務経験のある教員】 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 【科目のナンバリング】 SOB2303 【その他の特記事項】 特になし。
成績評価法	【評価の内容・割合・基準】 授業での課題への取り組み姿勢や提出物，期末試験の成績等によって評価します。 ①　試験　40%　期末試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②　レポート　0%　実施しません。 ③　平常点　30%　授業態度や提出物を評価します。 ④　その他　30%　授業冒頭の小テストを評価します。
教科書	教科書は使用しません。毎回，プリントを配布します。
参考書	下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」　ミネルヴァ書房
学生へのメッセージ	保護者が自分よりも年上である，ということは往々にしてあります。それでも，みなさんは保護者の相談に応じなければなりません。 そんなときに大きな武器となるのが，専門職としての「アセスメントスキル」や「支援スキル」です。 本授業では，それらの知識やスキルを身に付けて，保護者からの教育相談に適切に応じることで，目の前の「その子」を支援することを目指します。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　非常勤講師室 木曜日が出講日です。 上記の部屋あるいは授業の前後の教室で質問に応じます。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	oguri@atomi.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 入内澤　雅代	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	子どもが健康的な生活を送る上で大切な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できるようになる。また、食育の重要性を理解し食生活全般について改善する方法や対策を考え適切に支援できるようになる。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できるようになる。 到達目標については、学修成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキストで該当する章の事前読了を求める。各回の予習には30分かかると想定される。また、復習として、板書事項や配布印刷物の見直しをする。各回の復習には15分かかると想定される。復習した事項を中心に、指定した授業時間に小テストを数回行う。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 子どもの健康と食生活の意義、基本的知識を習得する。子どもの発育・発達と食生活の関連を理解し、また食育の意義・目的と基本的考え方、その内容等についても理解する。関連するガイドライン等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物を活用する。 ②授業形態 講義・演習・実習 ③アクティブラーニング 理解度確認のため、指定した授業時間内で小テストを行う。 グループ実習（調理）を行い、その後レポートを作成する。 ④課題に対するフィードバックの方法 小テストを採点後、解答の解説を行う。 授業計画 第1回：子どもの健康と食生活の意義 第2回：栄養に関する基本的知識（１）（炭水化物・たんぱく質・脂質） 第3回：栄養に関する基本的知識（２）（ミネラル・ビタミン・消化と吸収） 第4回：栄養に関する基礎的知識（食事摂取基準など） 第5回：子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義と食生活） 第6回：子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活） 第7回：子どもの発育・発達と食生活（学童期の心身の発達と食生活） 第8回：食育の基本と内容 第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

	第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第11回：小児食作りの基礎（献立・調理の基礎） 第12回：調乳・離乳食の調理実習 第13回：幼児食（１～２歳児）の調理実習 第14回：幼児食（３～５歳児）の調理実習 第15回：学童食の調理実習 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 　本科目は実務経験のある教員（高校家庭科教諭）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2401 ③その他の特記事項 　特になし
成績評価法	試験　70%　期末試験で授業内容全般の理解度を評価する。 レポート　20%　調理実習後のレポートや提出課題を評価する。 平常点　10%　授業に取り組む姿勢を評価する。
教科書	「最新子どもの食と栄養」　飯塚美和子他　著（学建書院）を使用する。
学生へのメッセージ	子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもを取り巻く食環境や食に関する情報に関心をもって授業に臨んでほしい。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階　非常勤講師室（前期　月曜日　　後期　月・金曜日）
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用URL	http://masayo_iriuchizawa@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 入内澤　雅代	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	子どもが健康的な生活を送る上で大切な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できるようになる。また、食育の重要性を理解し食生活全般について改善する方法や対策を考え適切に支援できるようになる。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できるようになる。 到達目標については、学修成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキストで該当する章の事前読了を求める。各回の予習には30分かかると想定される。また、復習として、板書事項や配布印刷物の見直しをする。各回の復習には15分かかると想定される。復習した事項を中心に、指定した授業時間に小テストを数回行う。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 子どもの健康と食生活の意義、基本的知識を習得する。子どもの発育・発達と食生活の関連を理解し、また食育の意義・目的と基本的考え方、その内容等についても理解する。関連するガイドライン等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物を活用する。 ②授業形態 講義・演習・実習 ③アクティブラーニング 理解度確認のため、指定した授業時間内で小テストを行う。 グループ実習（調理）を行い、その後レポートを作成する。 ④課題に対するフィードバックの方法 小テストを採点後、解答の解説を行う。 授業計画 第1回：子どもの健康と食生活の意義 第2回：栄養に関する基本的知識（１）（炭水化物・たんぱく質・脂質） 第3回：栄養に関する基本的知識（２）（ミネラル・ビタミン・消化と吸収） 第4回：栄養に関する基礎的知識（食事摂取基準など） 第5回：子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義と食生活） 第6回：子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活） 第7回：子どもの発育・発達と食生活（学童期の心身の発達と食生活） 第8回：食育の基本と内容 第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

	第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第11回：小児食作りの基礎（献立・調理の基礎） 第12回：調乳・離乳食の調理実習 第13回：幼児食（１～２歳児）の調理実習 第14回：幼児食（３～５歳児）の調理実習 第15回：学童食の調理実習 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 　本科目は実務経験のある教員（高校家庭科教諭）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2401 ③その他の特記事項 　特になし
成績評価法	試験　70%　期末試験で授業内容全般の理解度を評価する。 レポート　20%　調理実習後のレポートや提出課題を評価する。 平常点　10%　授業に取り組む姿勢を評価する。
教科書	「最新子どもの食と栄養」　飯塚美和子他　著（学建書院）を使用する。
学生へのメッセージ	子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもを取り巻く食環境や食に関する情報に関心をもって授業に臨んでほしい。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階　非常勤講師室（前期　月曜日　　後期　月・金曜日）
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用URL	http://masayo_iriuchizawa@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 入内澤　雅代	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	子どもが健康的な生活を送る上で大切な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できるようになる。また、食育の重要性を理解し食生活全般について改善する方法や対策を考え適切に支援できるようになる。さらに、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題や、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できるようになる。 到達目標については、学修成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に②③を重視する。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している」を達成するための科目である。
準備学習	予習としてテキストで該当する章の事前読了を求める。各回の予習には30分かかると想定される。また、復習として、板書事項や配布印刷物の見直しをする。各回の復習には15分かかると想定される。復習した事項を中心に、指定した授業時間に小テストを数回行う。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 子どもの健康と食生活の意義、基本的知識を習得する。子どもの発育・発達と食生活の関連を理解し、また食育の意義・目的と基本的考え方、その内容等についても理解する。関連するガイドライン等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 板書、配布印刷物を活用する。 ②授業形態 講義・演習・実習 ③アクティブラーニング 理解度確認のため、指定した授業時間内で小テストを行う。 グループ実習（調理）を行い、その後レポートを作成する。 ④課題に対するフィードバックの方法 小テストを採点後、解答の解説を行う。 授業計画 第1回：子どもの健康と食生活の意義 第2回：栄養に関する基本的知識（１）（炭水化物・たんぱく質・脂質） 第3回：栄養に関する基本的知識（２）（ミネラル・ビタミン・消化と吸収） 第4回：栄養に関する基礎的知識（食事摂取基準など） 第5回：子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義と食生活） 第6回：子どもの発育・発達と食生活（幼児期の心身の発達と食生活） 第7回：子どもの発育・発達と食生活（学童期の心身の発達と食生活） 第8回：食育の基本と内容 第9回：家庭や児童福祉施設における食事と栄養

	第10回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養 第11回：小児食作りの基礎（献立・調理の基礎） 第12回：調乳・離乳食の調理実習 第13回：幼児食（１～２歳児）の調理実習 第14回：幼児食（３～５歳児）の調理実習 第15回：学童食の調理実習 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 　本科目は実務経験のある教員（高校家庭科教諭）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2401 ③その他の特記事項 　特になし
成績評価法	試験　70%　期末試験で授業内容全般の理解度を評価する。 レポート　20%　調理実習後のレポートや提出課題を評価する。 平常点　10%　授業に取り組む姿勢を評価する。
教科書	「最新子どもの食と栄養」　飯塚美和子他　著（学建書院）を使用する。
学生へのメッセージ	子どもが健康に成長するためには日々の食生活が大切であるので、日頃から子どもを取り巻く食環境や食に関する情報に関心をもって授業に臨んでほしい。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階　非常勤講師室（前期　月曜日　　後期　月・金曜日）
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用URL	http://masayo_iriuchizawa@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅰ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	B群		
対象学部・年次	短期大学部・１年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としています。（詳しくは到達目標を参照してください。 授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効率的に学んで行きます。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 学習成果における　①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 特に②知識・技能を重視する。 （備考） Aパート　「文章作法」文章力の基礎を身につけて、授業や実習における実務に活用できる。 Bパート　「ディスカッション」基礎的なディスカッション能力を身につけて、授業に活用できる。 Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を身につけて、レポート作成に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 短大で学ぶために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態 講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文章の作成）を行います。

	本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ・話し合い・文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） １　「１文１義」のわかりやすい文章 ２　作短生としての考え方を文章に落とし込む ３　感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」） ４　相手にやる気が伝わる文章の書き方 ５　公文書における敬語の正しい使い方 Bパート「ディスカッション」（担当　矢野善教） １　なぜ「話し合う」ことが大切なのか ２　短大生活で努力すべきことは何か ３　子どもと関わる責任について考える ４　福祉施設について学ぶ ５　ボランティア活動について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） １　大学図書館での学習方法（館内施設の利用法） ２　図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法 ３　図書館司書の仕事 ４　公共図書館における障害者サービス ５　期末レポートに役立つ図書館の活用法
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1103 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　10%　発表やワークシートについて評価します。
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212）　久野研究室（2213）　矢野研究室（2220） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667 - 7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅰ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	B群		
対象学部・年次	短期大学部・１年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としています。（詳しくは到達目標を参照してください。 授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効率的に学んで行きます。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 学習成果における　①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 特に②知識・技能を重視する。 （備考） Aパート　「文章作法」文章力の基礎を身につけて、授業や実習における実務に活用できる。 Bパート　「ディスカッション」基礎的なディスカッション能力を身につけて、授業に活用できる。 Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を身につけて、レポート作成に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 短大で学ぶために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態 講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文章の作成）を行います。

	本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ・話し合い・文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） 1　「１文１義」のわかりやすい文章 2　作短生としての考え方を文章に落とし込む 3　感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」） 4　相手にやる気が伝わる文章の書き方 5　公文書における敬語の正しい使い方 Bパート「ディスカッション」（担当　矢野善教） 1　なぜ「話し合う」ことが大切なのか 2　短大生活で努力すべきことは何か 3　子どもと関わる責任について考える 4　福祉施設について学ぶ 5　ボランティア活動について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） 1　大学図書館での学習方法（館内施設の利用法） 2　図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法 3　図書館司書の仕事 4　公共図書館における障害者サービス 5　期末レポートに役立つ図書館の活用法
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1103 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　10%　発表やワークシートについて評価します。
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212）　久野研究室（2213）　矢野研究室（2220） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅰ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	B群		
対象学部・年次	短期大学部・１年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	矢野　善教	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 　この授業は、本学に入学し、保育者をめざして学ぶすべての学生に必要とされる「書く力」「議論する力」「調べる力」という「学びの基礎」を身につけることを目標としています。（詳しくは到達目標を参照してください。 　授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・C「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効率的に学んで行きます。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 　学習成果における　①保育者観　②知識・技能　④人間性と協調性　が該当する。 　特に②知識・技能を重視する。 （備考） 　Aパート　「文章作法」文章力の基礎を身につけて、授業や実習における実務に活用できる。 　Bパート　「ディスカッション」基礎的なディスカッション能力を身につけて、授業に活用できる。 　Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を身につけて、レポート作成に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 　本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 　短大で学ぶために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 　授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 　授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 　授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態 　講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文章の作成）を行います。

	本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ・話し合い・文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） １　「１文１義」のわかりやすい文章 ２　作短生としての考え方を文章に落とし込む ３　感想の書き方（「ふり返り」と「課題の発見」） ４　相手にやる気が伝わる文章の書き方 ５　公文書における敬語の正しい使い方 Bパート「ディスカッション」（担当　矢野善教） １　なぜ「話し合う」ことが大切なのか ２　短大生活で努力すべきことは何か ３　子どもと関わる責任について考える ４　福祉施設について学ぶ ５　ボランティア活動について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） １　大学図書館での学習方法（館内施設の利用法） ２　図書館で本を探す方法と本を書架にもどす方法 ３　図書館司書の仕事 ４　公共図書館における障害者サービス ５　期末レポートに役立つ図書館の活用法
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1103 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　10%　発表やワークシートについて評価します。
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業用）を配布します。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 短大の多くの授業や実習の中で、きっとこの授業で学んだ成果を皆さん一人ひとりが実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212）　久野研究室（2213）　矢野研究室（2220） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667 - 7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅱ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した１年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としています。 授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効果的に学んで行きます。 基礎教養Ⅰに続く科目として、授業内容はレベルアップします。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 学習成果における　①保育者観　　②知識・技能　　③人間性と協調性　が該当する。 特に②知識・技能を重視する。 （備考） Aパート　「文章作法」文章力を向上させて就職試験の小論文にまで活用できる。 Bパート　「ディスカッション」ディスカッション能力を向上させて保育現場でも活用できる。 Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を向上させて保育者養成校での学習や実習に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には、30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 短大の学びに加えて保育の現場で働いて行くために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態

	講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文昌の作成）を行います。 本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ、話し合い、文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） １　小論文は「４つの引き出し」で書く ２　小論文「理想の保育士について」の書き方 ３　小論文「少子化時代の保育について」の書き方 ４　小論文「私が尊敬する人物」の書き方 ５　採用試験「小論文」の傾向と対策 Bパート「ディスカッション」（担当　設楽紗英子） １　現代の子どもを取り巻く環境について考える ２　現代の親子関係・家族関係について考える ３　男女協働参画社会について考える ４　子供の食育について考える ５　保育者をめざす自分の生き方について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） １　貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史 ２　著作権についての基礎知識 ３　図書館所蔵の児童文学作品を知ろう ４　「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」 ５　子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1203 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	学生へのメッセージ この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりつけて２年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212研究室）　久野研究室（2213研究室）　設楽研究室（2226研究室） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028 - 667 - 7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅱ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した１年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としています。 授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効果的に学んで行きます。 基礎教養Ⅰに続く科目として、授業内容はレベルアップします。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 学習成果における　①保育者観　　②知識・技能　　③人間性と協調性　が該当する。 特に②知識・技能を重視する。 （備考） Aパート　「文章作法」文章力を向上させて就職試験の小論文にまで活用できる。 Bパート　「ディスカッション」ディスカッション能力を向上させて保育現場でも活用できる。 Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を向上させて保育者養成校での学習や実習に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には、30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 短大の学びに加えて保育の現場で働いて行くために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態

	講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文昌の作成）を行います。 本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ、話し合い、文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） １　小論文は「４つの引き出し」で書く ２　小論文「理想の保育士について」の書き方 ３　小論文「少子化時代の保育について」の書き方 ４　小論文「私が尊敬する人物」の書き方 ５　採用試験「小論文」の傾向と対策 Bパート「ディスカッション」（担当　設楽紗英子） １　現代の子どもを取り巻く環境について考える ２　現代の親子関係・家族関係について考える ３　男女協働参画社会について考える ４　子供の食育について考える ５　保育者をめざす自分の生き方について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） １　貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史 ２　著作権についての基礎知識 ３　図書館所蔵の児童文学作品を知ろう ４　「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」 ５　子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1203 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	学生へのメッセージ この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりつけて２年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212研究室）　久野研究室（2213研究室）　設楽研究室（2226研究室） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028 - 667 - 7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	基礎教養Ⅱ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	0.00
代表曜日	金曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名			
科目分野名			
対象学部・年次			
必須/選択			

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 西田　直樹	指定なし
指定なし	久野　高志	指定なし
指定なし	設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	【１　授業の目標とテーマ】 この授業は、本学に入学し半年間の授業と幼稚園での実習を経験した１年生が、「書く力」「議論する力」「調べる力」といった「学びの基礎」をさらに固めて成長して行くことを目標としています。 授業は、Aパート「文章作法」・Bパート「ディスカッション」・Cパート「図書館活用法」の３つのパートから成り、３名の教員によるオムニバス形式を採ることで、幅広い知識を効果的に学んで行きます。 基礎教養Ⅰに続く科目として、授業内容はレベルアップします。 【２　学習成果評価マトリックスとの関連】 学習成果における　①保育者観　　②知識・技能　　③人間性と協調性　が該当する。 特に②知識・技能を重視する。 （備考） Aパート　「文章作法」文章力を向上させて就職試験の小論文にまで活用できる。 Bパート　「ディスカッション」ディスカッション能力を向上させて保育現場でも活用できる。 Cパート　「図書館活用法」図書館活用能力を向上させて保育者養成校での学習や実習に活用できる。 【３　ディプロマ・ポリシーとの関連】 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」と「３．情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目です。
準備学習	各回の予習には、30分かかると想定されます。また復習としてワークシートや回答解説、板書事項を見直して下さい。各回の復習には15分かかると想定されます。 予習・復習については、各回授業の発表やワークシートの内容によって点検します。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 短大の学びに加えて保育の現場で働いて行くために必要な「話す・書く・調べる」の３つの力を身につけます。 授業であつかう諸領域に対して関心を持って学び、的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけます。 授業は３パートに分かれており、３名の教員がオムニバス形式で担当します。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では、板書と配布印刷物を活用します。 ②授業形態

	講義形式で方法を説明したのち、グループワークや実技（文昌の作成）を行います。 本科目ではアクティブラーニングを取り入れます。具体的には、「調べ、話し合い、文章や言葉で発表する」という事を行います。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、ワークシート（課題プリントを含む）を採点後、次回の授業時に返却し、解答解説や今後の注意点についての説明を行います。 【授業計画】 Aパート「文章作法」（担当　西田直樹） １　小論文は「４つの引き出し」で書く ２　小論文「理想の保育士について」の書き方 ３　小論文「少子化時代の保育について」の書き方 ４　小論文「私が尊敬する人物」の書き方 ５　採用試験「小論文」の傾向と対策 Bパート「ディスカッション」（担当　設楽紗英子） １　現代の子どもを取り巻く環境について考える ２　現代の親子関係・家族関係について考える ３　男女協働参画社会について考える ４　子供の食育について考える ５　保育者をめざす自分の生き方について考える Cパート「図書館活用法」（担当　久野高志） １　貴重本等から学ぶ印刷・出版の歴史 ２　著作権についての基礎知識 ３　図書館所蔵の児童文学作品を知ろう ４　「日本の昔ばなし」と「世界のおとぎばなし」 ５　子供に読み聞かせしたい絵本をみつけよう
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、Bパートにおいて　実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目ナンバリング LIL1203 ③その他の特記事項 特になし
成績評価法	①試験　　70%（各パートの最終課題を含む学修成果確認試験を行います。） ②レポート　0% ③平常点　　20%（授業への参加態度について評価します。） ④その他　　10%（発表やワークシートについて評価します。）
教科書	毎回授業ごとにプリント（予習・本授業）を配布する。
参考書	各パートの担当者が授業の中で適宜紹介します。
学生へのメッセージ	学生へのメッセージ この授業は、皆さんの短大での学びを、より豊かに充実したものとするため、必ず履修しなければければならないものです。 15回の授業の中で、３名の教員が専門性や豊富な教育経験に基づく指導を行います。 1年生のうちに学びに関わる基礎的な能力をしっかりつけて２年生の授業の授業や本実習の時に、きっとこの授業で学んだ成果を実感できるはずです。がんばりましょう。
研究室（訪問先等）	西田研究室（2212研究室）　久野研究室（2213研究室）　設楽研究室（2226研究室） 代表者（西田）の研究室は、２１２研究室です。 月・火・水・木・金が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028 - 667 - 7111（代表）
授業用E-mail	nishida@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	発達心理学　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育で求められる発達を捉える視点について説明できることを大きな目標とし，子どもの発達に関わる心理学的知識，養護や教育の役割，人や環境の影響について理解を深める。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解してる。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連づけて理解している」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 保育実践に関わる心理学的知識を習得し、発達的視点について理解する。その上で、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。特に、乳幼児期における保育上の人間関係や環境の意義を重点的に理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　発達的な見方と保育 第2回　発達段階と発達理論 第3回　発達と環境 第4回　胎児期・新生児期の発達 第5回　乳児期の発達：認知能力 第6回　乳児期の発達：コミュニケーション能力 第7回　幼児期の発達 第8回　愛着：形成過程 第9回　愛着：関連要因 第10回　遊び

	第11回　ことば 第12回　自己と感情 第13回　身体的機能と運動機能 第14回　仲間関係 第15回　乳幼児期の学び 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②本科目のナンバリング SUN1101 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50%　定期試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　30%　課題は第1回目の授業で提示します。与えられた課題について，授業内容を踏まえて考察できているかを評価します。 ③平常点　20%　授業中に出す課題への貢献度，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房） 遠藤利彦他（2011）『乳幼児のこころ』（有斐閣）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・か・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	発達心理学　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育で求められる発達を捉える視点について説明できることを大きな目標とし，子どもの発達に関わる心理学的知識，養護や教育の役割，人や環境の影響について理解を深める。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解してる。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連づけて理解している」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 保育実践に関わる心理学的知識を習得し、発達的視点について理解する。その上で、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。特に、乳幼児期における保育上の人間関係や環境の意義を重点的に理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　発達的な見方と保育 第2回　発達段階と発達理論 第3回　発達と環境 第4回　胎児期・新生児期の発達 第5回　乳児期の発達：認知能力 第6回　乳児期の発達：コミュニケーション能力 第7回　幼児期の発達 第8回　愛着：形成過程 第9回　愛着：関連要因 第10回　遊び

	第11回　ことば 第12回　自己と感情 第13回　身体的機能と運動機能 第14回　仲間関係 第15回　乳幼児期の学び 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②本科目のナンバリング SUN1101 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50%　定期試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　30%　課題は第1回目の授業で提示します。与えられた課題について，授業内容を踏まえて考察できているかを評価します。 ③平常点　20%　授業中に出す課題への貢献度，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房） 遠藤利彦他（2011）『乳幼児のこころ』（有斐閣）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・か・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	発達心理学　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育で求められる発達を捉える視点について説明できることを大きな目標とし，子どもの発達に関わる心理学的知識，養護や教育の役割，人や環境の影響について理解を深める。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシー「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解してる。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連づけて理解している」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 保育実践に関わる心理学的知識を習得し、発達的視点について理解する。その上で、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。特に、乳幼児期における保育上の人間関係や環境の意義を重点的に理解する。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　発達的な見方と保育 第2回　発達段階と発達理論 第3回　発達と環境 第4回　胎児期・新生児期の発達 第5回　乳児期の発達：認知能力 第6回　乳児期の発達：コミュニケーション能力 第7回　幼児期の発達 第8回　愛着：形成過程 第9回　愛着：関連要因 第10回　遊び

	第11回　ことば 第12回　自己と感情 第13回　身体的機能と運動機能 第14回　仲間関係 第15回　乳幼児期の学び 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②本科目のナンバリング SUN1101 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50%　定期試験で，授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　30%　課題は第1回目の授業で提示します。与えられた課題について，授業内容を踏まえて考察できているかを評価します。 ③平常点　20%　授業中に出す課題への貢献度，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	原信夫・井上美鈴編著（2019年）『子ども家庭支援の心理学』（北樹出版）
参考書	無藤隆他（2009年）『よくわかる発達心理学』（ミネルヴァ書房） 遠藤利彦他（2011）『乳幼児のこころ』（有斐閣）
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・か・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	教育心理学　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者としての資質を高めるためには，子ども一人ひとりの心身の発達や学びを支援する方法を裏付ける知識に精通しておくことが求められます。本授業では，子どもの学びを理解する心理学的な考え方や方法を論じることができることを目標とします。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視します。 本科目は，幼児教育課のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連付けて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」を達成するための科目です。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 本科目では，効果的な保育・教育の実践を支える心理学の知識として，子どもの認知や思考、学習者の適性，効果的な学習のあり方，学習を促す上での支援について学びます。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回 教育心理学と保育実践 第2回 子どもを理解する視点 第3回 成熟と学習、発達①　発達のイメージ 第4回 成熟と学習、発達②　発達の速度とルート 第5回 思考①　思考の基礎知識 第6回 思考②　子どもの思考 第7回 記憶①　記憶の基礎知識 第8回 記憶②　子どもの記憶力 第9回 学習①　学習の基礎知識 第10回 学習②　学習理論の応用

	第11回 動機づけ① 動機づけの基礎知識 第12回 動機づけ② 動機づけ理論の応用 第13回 集団① 集団の特徴とプロセス 第14回 集団② 親密さの形成要因 第15回 子どもの理解に基づく発達援助 期末試験
特記事項等	①実務経験がある教員 本科目は，実務経験のある教員（臨床心理師）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2303 ③その他の特記事項 特にありません。
成績評価法	①試験 60% 期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート 0% ③平常点 40% 課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他 0%
教科書	適宜資料を配布します。
参考書	吉田武男（監修），濱口佳和（編集） 教育心理学（MINERVAはじめて学ぶ教職） ミネルヴァ書房
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	教育心理学　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者としての資質を高めるためには，子ども一人ひとりの心身の発達や学びを支援する方法を裏付ける知識に精通しておくことが求められます。本授業では，子どもの学びを理解する心理学的な考え方や方法を論じることができることを目標とします。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視します。 本科目は，幼児教育課のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連付けて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」を達成するための科目です。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 本科目では，効果的な保育・教育の実践を支える心理学の知識として，子どもの認知や思考、学習者の適性，効果的な学習のあり方，学習を促す上での支援について学びます。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回 教育心理学と保育実践 第2回 子どもを理解する視点 第3回 成熟と学習、発達①　発達のイメージ 第4回 成熟と学習、発達②　発達の速度とルート 第5回 思考①　思考の基礎知識 第6回 思考②　子どもの思考 第7回 記憶①　記憶の基礎知識 第8回 記憶②　子どもの記憶力 第9回 学習①　学習の基礎知識 第10回 学習②　学習理論の応用

	第11回 動機づけ① 動機づけの基礎知識 第12回 動機づけ② 動機づけ理論の応用 第13回 集団① 集団の特徴とプロセス 第14回 集団② 親密さの形成要因 第15回 子どもの理解に基づく発達援助 期末試験
特記事項等	①実務経験がある教員 本科目は，実務経験のある教員（臨床心理師）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2303 ③その他の特記事項 特にありません。
成績評価法	①試験 60% 期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート 0% ③平常点 40% 課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他 0%
教科書	適宜資料を配布します。
参考書	吉田武男（監修），濱口佳和（編集） 教育心理学（MINERVAはじめて学ぶ教職） ミネルヴァ書房
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	教育心理学　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育者としての資質を高めるためには，子ども一人ひとりの心身の発達や学びを支援する方法を裏付ける知識に精通しておくことが求められます。本授業では，子どもの学びを理解する心理学的な考え方や方法を論じることができることを目標とします。 到達目標については，学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と実務能力，④人間性と協調性が該当する。特に①②を重視します。 本科目は，幼児教育課のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また，幼児教育の歴史，社会や自然と関連付けて理解している。」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」を達成するための科目です。
準備学習	1）予習　各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます。各回の予習には150分かかると想定されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると想定されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 本科目では，効果的な保育・教育の実践を支える心理学の知識として，子どもの認知や思考、学習者の適性，効果的な学習のあり方，学習を促す上での支援について学びます。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書、パワーポイント、配布印刷物、視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，子どもを発達的に捉える力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回以降の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回 教育心理学と保育実践 第2回 子どもを理解する視点 第3回 成熟と学習、発達①　発達のイメージ 第4回 成熟と学習、発達②　発達の速度とルート 第5回 思考①　思考の基礎知識 第6回 思考②　子どもの思考 第7回 記憶①　記憶の基礎知識 第8回 記憶②　子どもの記憶力 第9回 学習①　学習の基礎知識 第10回 学習②　学習理論の応用

	第11回 動機づけ① 動機づけの基礎知識 第12回 動機づけ② 動機づけ理論の応用 第13回 集団① 集団の特徴とプロセス 第14回 集団② 親密さの形成要因 第15回 子どもの理解に基づく発達援助 期末試験
特記事項等	①実務経験がある教員 本科目は，実務経験のある教員（臨床心理師）が担当します。 ②科目のナンバリング SUN2303 ③その他の特記事項 特にありません。
成績評価法	①試験 60% 期末試験にレポートを課し、授業内容の理解度を評価します。 ②レポート 0% ③平常点 40% 課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他 0%
教科書	適宜資料を配布します。
参考書	吉田武男（監修），濱口佳和（編集） 教育心理学（MINERVAはじめて学ぶ教職） ミネルヴァ書房
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028－667－7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	ライフデザイン　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	Ｂ群		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を高めることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と協調性，④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシーの1，キャリア形成における基礎的知識を習得し，「6. 自学自習・自主自律を実践できる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，ライフデザインに関する知識やキャリア形成の適応力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　ライフデザインの必要性について 第2回　労働問題セミナー（特別講義） 第3回　健康セミナー（特別講義） 第4回　就職活動について（特別講義） 第5回　とちぎ消費者カレッジ（特別授業） 第6回　「私」を振り返る①　自分の定義 第7回　「私」を振り返る②　自分の居場所 第8回　「私」を振り返る③　自分の葛藤とバランス 第9回　自己実現と働くということ①　事例検討 第10回　自己実現と働くということ②　グループワーク 第11回　自己実現と働くということ③　グループワークまとめ

	第12回　キャリアについて考える①　大学生活のウソとホント 第13回　キャリアについて考える②　大学生活を振り返る 第14回　キャリアについて考える③　選択と決断の自己史 第15回　キャリアについて考える④　社会人としての自分 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング LCA1201 ③その他の特記事項 授業計画のうち，特別講義については，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　70%　期末試験で授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　30%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	ライフデザイン　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	Ｂ群		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を高めることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と協調性，④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシーの1，キャリア形成における基礎的知識を習得し，「6. 自学自習・自主自律を実践できる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，ライフデザインに関する知識やキャリア形成の適応力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　ライフデザインの必要性について 第2回　労働問題セミナー（特別講義） 第3回　健康セミナー（特別講義） 第4回　就職活動について（特別講義） 第5回　とちぎ消費者カレッジ（特別授業） 第6回　「私」を振り返る①　自分の定義 第7回　「私」を振り返る②　自分の居場所 第8回　「私」を振り返る③　自分の葛藤とバランス 第9回　自己実現と働くということ①　事例検討 第10回　自己実現と働くということ②　グループワーク 第11回　自己実現と働くということ③　グループワークまとめ

	第12回　キャリアについて考える①　大学生活のウソとホント 第13回　キャリアについて考える②　大学生活を振り返る 第14回　キャリアについて考える③　選択と決断の自己史 第15回　キャリアについて考える④　社会人としての自分 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 　本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング 　LCA1201 ③その他の特記事項 　授業計画のうち，特別講義については，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　70%　期末試験で授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　30%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	ライフデザイン　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	教養科目		
科目分野名	Ｂ群		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 設楽　紗英子	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	社会人として自立した存在になるためには、自分の生き方に主体的に関わる姿勢が必要である。本授業では、自分と自分が歩んできた状況や社会に目を向け、自己実現を目指して両者をすり合わせる作業を通じ、キャリア形成への適応力を高めることを目標とする。 到達目標については、学習成果における①保育者観，②知識・技能，③実践力と協調性，④人間性と協調性が該当する。特に①④を重視する。 本科目は，幼児教育科のディプロマ・ポリシーの1，キャリア形成における基礎的知識を習得し，「6. 自学自習・自主自律を実践できる」を達成するための科目である。
準備学習	1）予習　各回で使用，もしくは，テーマに関連する文献の事前読了を求めます。各回の予習には150分かかると予想されます。 2）復習　各回で扱った内容を指定した方法で振り返り，まとめ，提出してもらいます。各回の復習には30分かかると予想されます。
授業の概要及び授業計画	授業の概要 　自分を捉える視点を整理し、仕事や家庭生活に関する様々なルールや規制等について情報を集めながら、ライフデザインの道筋と人生における自分の軸について考えていく。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 　板書，パワーポイント，配布印刷物，視聴覚メディアを活用する。 ②授業形態 　講義と個別ワーク，グループワークを組み合わせながら行う。 ③アクティブラーニング 　本科目では，講義内容について，個別／グループワークを通して体験的に理解を深めてもらうことで，ライフデザインに関する知識やキャリア形成の適応力を身につけてもらう。 ④課題に対するフィードバックの方法 　復習内容を確認後，次回の授業時に返却し，個別あるいは全体に対し，コメントを伝えます。 授業計画 第1回　ライフデザインの必要性について 第2回　労働問題セミナー（特別講義） 第3回　健康セミナー（特別講義） 第4回　就職活動について（特別講義） 第5回　とちぎ消費者カレッジ（特別授業） 第6回　「私」を振り返る①　自分の定義 第7回　「私」を振り返る②　自分の居場所 第8回　「私」を振り返る③　自分の葛藤とバランス 第9回　自己実現と働くということ①　事例検討 第10回　自己実現と働くということ②　グループワーク 第11回　自己実現と働くということ③　グループワークまとめ

	第12回　キャリアについて考える①　大学生活のウソとホント 第13回　キャリアについて考える②　大学生活を振り返る 第14回　キャリアについて考える③　選択と決断の自己史 第15回　キャリアについて考える④　社会人としての自分 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 　本科目は実務経験のある教員（臨床心理士）が担当します。 ②科目のナンバリング 　LCA1201 ③その他の特記事項 　授業計画のうち，特別講義については，開催回を入れ替える可能性がある。
成績評価法	①試験　70%　期末試験で授業内容の理解度を評価します。 ②レポート　0% ③平常点　30%　課題の達成具合，授業態度を評価します。 ④その他　0%
教科書	適宜資料を配布する。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階226研究室 月・火・水・木が出講日です。直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	shitara@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会福祉　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる社会福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴社会福祉の制度や実施体系などについて理解し、説明できる。 ⑵社会福祉における相談援助について理解し、説明できる。 ⑶社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、説明できる。 ⑷現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点を理解し、考察することができる。 ⑸社会福祉の動向と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」とおよび「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会福祉は、保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。そこで本授業は、社会福祉の制度・実施体系や支援体制、現代社会における社会福祉の意義・課題などを学び、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会福祉の理念と概念 第２回　社会福祉の歴史的変遷 第３回　子ども家庭支援と社会福祉 第４回　社会福祉の制度・法体系と関連制度（社会保障など） 第５回　社会福祉行財政と実施機関 第６回　社会福祉施設と専門職 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会福祉における相談援助（理論、意義と機能、対象と過程、方法・技術など） 第９回　保育者の実践と相談援助（子育ち・親育ちの支援における相談援助） 第１０回　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（第三者評価、権利擁護、苦情解決など） 第１１回　社会福祉の動向と課題①：少子高齢化社会における子育て支援 第１２回　社会福祉の動向と課題②：共生社会の実現と在宅福祉・地域福祉の推進 第１３回　社会福祉の動向と課題③：諸外国の動向 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＯＢ１１０２ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	北川清一・他「社会福祉への招待 社会福祉入門」ミネルヴァ書房（¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会福祉　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	月曜日	代表時限	１時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる社会福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴社会福祉の制度や実施体系などについて理解し、説明できる。 ⑵社会福祉における相談援助について理解し、説明できる。 ⑶社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、説明できる。 ⑷現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点を理解し、考察することができる。 ⑸社会福祉の動向と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」とおよび「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会福祉は、保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。そこで本授業は、社会福祉の制度・実施体系や支援体制、現代社会における社会福祉の意義・課題などを学び、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会福祉の理念と概念 第２回　社会福祉の歴史的変遷 第３回　子ども家庭支援と社会福祉 第４回　社会福祉の制度・法体系と関連制度（社会保障など） 第５回　社会福祉行財政と実施機関 第６回　社会福祉施設と専門職 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会福祉における相談援助（理論、意義と機能、対象と過程、方法・技術など） 第９回　保育者の実践と相談援助（子育ち・親育ちの支援における相談援助） 第１０回　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（第三者評価、権利擁護、苦情解決など） 第１１回　社会福祉の動向と課題①：少子高齢化社会における子育て支援 第１２回　社会福祉の動向と課題②：共生社会の実現と在宅福祉・地域福祉の推進 第１３回　社会福祉の動向と課題③：諸外国の動向 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 実務経験あり。 ②科目のナンバリング ＳＯＢ１１０２ ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　０％ ③平常点　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　０％
教科書	北川清一・他「社会福祉への招待 社会福祉入門」ミネルヴァ書房（¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	社会福祉　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	５時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 坪井　真	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる社会福祉を理解するため、本科目では、以下の到達目標を位置づけます。 ⑴社会福祉の制度や実施体系などについて理解し、説明できる。 ⑵社会福祉における相談援助について理解し、説明できる。 ⑶社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、説明できる。 ⑷現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点を理解し、考察することができる。 ⑸社会福祉の動向と課題について理解し、考察することができる。 ⑹主体的な姿勢で予習・復習およびグループ学習に取り組むことができる。 また、学修成果評価マトリックスとの関連について、本科目は①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、特に①幼児教育者観、②知識・技能を重視します。 さらに本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「１．諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」とおよび「８．地域社会が抱える課題、特に幼児教育の課題に向けて主体的に取り組むことができる」を達成するための科目に位置づけられます。
準備学習	［予習］ 次回の授業に該当する教科書を読解し、理解したことや考察内容を予習してください。各回の予習には９０分かかると想定されます。なお、予習の成果を所定の予習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。 ［復習］ 授業に該当する教科書などを読解し、理解したことや考察内容を復習してください。各回の復習には９０分かかると想定されます。なお、復習の成果を所定の復習シートに記述し、指定期日までに提出することができます。
授業の概要及び授業計画	［授業の概要］ 社会福祉は、保育実践のみならず、子どもや保護者の生活にかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。そこで本授業は、社会福祉の制度・実施体系や支援体制、現代社会における社会福祉の意義・課題などを学び、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解します。 ［授業の方法］※共通 ①プレゼンテーションの方法 授業では教科書を活用します。また、授業内容に応じてパワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤなど）も活用します。 ②授業形態 講義形式で教科書の内容を説明し、パワーポイントや視聴覚メディア（ＤＶＤ）を活用した授業もおこないます。また、第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。

	③アクティブラーニングの有無 　第７回・第１４回の授業では、ディスカッションを中心としたグループ学習および確認テストをおこないます。 ④課題に対するフィードバックの方法 　フィードバックとして、第７回・第１４回の授業で確認テストを実施します。テストの結果は第１５回の授業時に返却し、本科目で理解する知識や考え方などを解説します。 ［授業計画］ 第１回　①授業のガイダンス　②社会福祉の理念と概念 第２回　社会福祉の歴史的変遷 第３回　子ども家庭支援と社会福祉 第４回　社会福祉の制度・法体系と関連制度（社会保障など） 第５回　社会福祉行財政と実施機関 第６回　社会福祉施設と専門職 第７回　第１回から第６回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第８回　社会福祉における相談援助（理論、意義と機能、対象と過程、方法・技術など） 第９回　保育者の実践と相談援助（子育ち・親育ちの支援における相談援助） 第１０回　社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（第三者評価、権利擁護、苦情解決など） 第１１回　社会福祉の動向と課題①：少子高齢化社会における子育て支援 第１２回　社会福祉の動向と課題②：共生社会の実現と在宅福祉・地域福祉の推進 第１３回　社会福祉の動向と課題③：諸外国の動向 第１４回　第８回から第１３回の学習内容に係るグループ学習と確認テスト 第１５回　①確認テストの解説　②授業の振り返りとまとめ 定期試験（期末試験）
特記事項等	①実務経験のある教員 　実務経験あり。 ②科目のナンバリング 　ＳＯＢ１１０２ ③その他の特記事項 　特になし。
成績評価法	①試験　　７０％　定期試験（期末試験）で授業内容全般の理解度を評価します。 ②レポート　　０％ ③平常点　　３０％　グループ学習の参加状況、確認テスト（２回）、予習・復習の学習状況を評価します。 ④その他　　０％
教科書	北川清一・他「社会福祉への招待 社会福祉入門」ミネルヴァ書房（¥2,500＋税）
参考書	適宜、紹介します。
学生へのメッセージ	社会福祉は、保育者が支援する子どもたちや保護者の人たちの生活全てにかかわる仕組み（政策や法律など）と取り組み（実践）です。また、皆さん自身の生活にも深くかかわっています。本授業をとおして、人々の暮らしと人生を支える社会福祉の重要性を理解してください。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２３０研究室 前期は月曜日・火曜日・金曜日が出校日です。また、後期は月曜日・火曜日・木曜日が出校日です。直接、研究室を訪ねてください。
電話番号	メールアドレス　tsuboi@sakushin-u.ac.jp 電話番号（代表）　０２８－６６７－７１１１
授業用E-mail	tsuboi@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	人間関係（指導法） AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	５時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小倉 庸寛	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」に示されたねらい及び内容を理解すること。また, 幼児期の心身の発達及び人との関わりの発達について理解するとともに, 保育者の援助を理解し, 実践できるようになる。 到達目標については, 学習成果における①幼児教育者観②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は, 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また, 幼児教育の歴史, 社会や自然と関連づけて理解している。」と「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「７．他者との協調・協働して行動できる。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として, 該当するテキストの事前読了を求める。各回の予習には20分かかると予想される。また, 復習として授業内容及び配布した資料や板書の見直し, 振り返りを行うこと。各回の復習には25分かかると予想される。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された, 領域「人間関係」のねらい及び内容について, 幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。その上で, 幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し, 実践する方法を身につける。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では, 板書もしくはパワーポイント, タブレットを活用し理解を図る。 ②授業形態 講義形式で説明したのち, グループワークを行う。 ③アクティブラーニングの有無 自らの考えを発表したり, グループ話し合うことで答えを見つける。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして, 小テストを行い, 次回の授業時に返却し, 解説を行う。 【授業計画】 第1回 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ。 第2回 教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方を理解する。 第3回 自立心を育む援助について理解する。 第4回 友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助のあり方を学ぶ。 第5回 自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方を学ぶ。 第6回 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について学ぶ。 第7回 ルールのある遊びと援助について学ぶ。 第8回 個と集団の育ちを考える。 第9回 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える。 第10回 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える。 第11回 幼小の交流活動を考える。 第12回 小学校以降の学習（生活や教科）で活かされる力について考える。 第13回 地域の中の幼稚園について考える。

	第14回　多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもについて考える。 第15回　領域「人間関係」をめぐる現代的な諸問題について学ぶ。　まとめ。 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は,実務経験のある教員（幼稚園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01105 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50% ②レポート　30%　課題・発表等の内容を評価する。 ③平常点　20%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　0%
教科書	保育内容「人間関係」　横山文樹・駒井美智子編　大学図書出版 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　フレーベル館
参考書	その都度紹介します。
学生へのメッセージ	実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階非常勤講師室 前期水曜日の午後が出講日
電話番号	028－667－7111（代）
授業用E-mail	tsunehiro_ogura@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	人間関係（指導法） CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小倉 庸寛	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」に示されたねらい及び内容を理解すること。また, 幼児期の心身の発達及び人との関わりの発達について理解するとともに, 保育者の援助を理解し, 実践できるようになる。 到達目標については, 学習成果における①幼児教育者観②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は, 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また, 幼児教育の歴史, 社会や自然と関連づけて理解している。」と「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「７．他者との協調・協働して行動できる。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として, 該当するテキストの事前読了を求める。各回の予習には20分かかると予想される。また, 復習として授業内容及び配布した資料や板書の見直し, 振り返りを行うこと。各回の復習には25分かかると予想される。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された, 領域「人間関係」のねらい及び内容について, 幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。その上で, 幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し, 実践する方法を身につける。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では, 板書もしくはパワーポイント, タブレットを活用し理解を図る。 ②授業形態 講義形式で説明したのち, グループワークを行う。 ③アクティブラーニングの有無 自らの考えを発表したり, グループ話し合うことで答えを見つける。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして, 小テストを行い, 次回の授業時に返却し, 解説を行う。 【授業計画】 第1回 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ。 第2回 教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方を理解する。 第3回 自立心を育む援助について理解する。 第4回 友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助のあり方を学ぶ。 第5回 自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方を学ぶ。 第6回 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について学ぶ。 第7回 ルールのある遊びと援助について学ぶ。 第8回 個と集団の育ちを考える。 第9回 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える。 第10回 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える。 第11回 幼小の交流活動を考える。 第12回 小学校以降の学習（生活や教科）で活かされる力について考える。 第13回 地域の中の幼稚園について考える。

	第14回　多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもについて考える。 第15回　領域「人間関係」をめぐる現代的な諸問題について学ぶ。　まとめ。 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は,実務経験のある教員（幼稚園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01105 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50% ②レポート　30%　課題・発表等の内容を評価する。 ③平常点　20%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　0%
教科書	保育内容「人間関係」　横山文樹・駒井美智子編　大学図書出版 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　フレーベル館
参考書	その都度紹介します。
学生へのメッセージ	実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階非常勤講師室 前期水曜日の午後が出講日
電話番号	028－667－7111（代）
授業用E-mail	tsunehiro_ogura@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	人間関係（指導法） EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	水曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 小倉 庸寛	指定なし
指定なし	教務委員会 （短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」に示されたねらい及び内容を理解すること。また, 幼児期の心身の発達及び人との関わりの発達について理解するとともに, 保育者の援助を理解し, 実践できるようになる。 到達目標については, 学習成果における①幼児教育者観②知識・技能③実践力と実務能力④人間性と協働性が該当する。特に①②③を重視する。 本科目は, 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「２．幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また, 幼児教育の歴史, 社会や自然と関連づけて理解している。」と「４．幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「７．他者との協調・協働して行動できる。また、目標実現のためにリーダーシップを発揮できる。」を達成するための科目である。
準備学習	予習として, 該当するテキストの事前読了を求める。各回の予習には20分かかると予想される。また, 復習として授業内容及び配布した資料や板書の見直し, 振り返りを行うこと。各回の復習には25分かかると予想される。
授業の概要及び授業計画	【授業の概要】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された, 領域「人間関係」のねらい及び内容について, 幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。その上で, 幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し, 実践する方法を身につける。 【授業の方法】 ①プレゼンテーションの方法 授業では, 板書もしくはパワーポイント, タブレットを活用し理解を図る。 ②授業形態 講義形式で説明したのち, グループワークを行う。 ③アクティブラーニングの有無 自らの考えを発表したり, グループ話し合うことで答えを見つける。 ④課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして, 小テストを行い, 次回の授業時に返却し, 解説を行う。 【授業計画】 第1回 幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ。 第2回 教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方を理解する。 第3回 自立心を育む援助について理解する。 第4回 友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助のあり方を学ぶ。 第5回 自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方を学ぶ。 第6回 きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助について学ぶ。 第7回 ルールのある遊びと援助について学ぶ。 第8回 個と集団の育ちを考える。 第9回 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考える。 第10回 幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える。 第11回 幼小の交流活動を考える。 第12回 小学校以降の学習（生活や教科）で活かされる力について考える。 第13回 地域の中の幼稚園について考える。

	第14回　多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもについて考える。 第15回　領域「人間関係」をめぐる現代的な諸問題について学ぶ。　まとめ。 期末試験
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は,実務経験のある教員（幼稚園長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01105 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　50% ②レポート　30%　課題・発表等の内容を評価する。 ③平常点　20%　準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する。 ④その他　0%
教科書	保育内容「人間関係」　横山文樹・駒井美智子編　大学図書出版 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　フレーベル館
参考書	その都度紹介します。
学生へのメッセージ	実習や保育現場にて子どもにどのように声をかけたらよいか、どのような働きかけがよいかを考え、実践できる力を身につけよう。
研究室（訪問先等）	中央研究棟2階非常勤講師室 前期水曜日の午後が出講日
電話番号	028－667－7111（代）
授業用E-mail	tsunehiro_ogura@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅰ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 山本　詩織	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。 将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべも学んでいただきたい。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業計画 第1回：ガイダンス　豊かな遊びの数々、幼少期の遊びの思い出 第2回：伝承遊び 第3回：集団遊び 第4回：新聞紙遊び 第5回：折り紙

	第6回：折り紙――幼児への指導を想定した折り紙 第7回：絵本1―絵本について（図書館）・絵本の読み聞かせのビデオ・グループ練習 第8回：絵本2―グループ練習 第9回：絵本3―絵本の読み聞かせの発表 第10回：紙芝居1―グループ練習の導入 第11回：紙芝居2―グループ練習 第12回：紙芝居3―紙芝居の実演 第13回：グループワーク1―キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ・班分け 第14回：グループワーク2―班旗作り1（グループの旗のデザイン、下書き） 第15回：グループワーク3―班旗作り2（布描きクレヨンで描く）
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅰ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 山本　詩織	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。 将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべも学んでいただきたい。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業計画 第1回：ガイダンス　豊かな遊びの数々、幼少期の遊びの思い出 第2回：伝承遊び 第3回：集団遊び 第4回：新聞紙遊び 第5回：折り紙

	第6回：折り紙――幼児への指導を想定した折り紙 第7回：絵本1―絵本について（図書館）・絵本の読み聞かせのビデオ・グループ練習 第8回：絵本2―グループ練習 第9回：絵本3―絵本の読み聞かせの発表 第10回：紙芝居1―グループ練習の導入 第11回：紙芝居2―グループ練習 第12回：紙芝居3―紙芝居の実演 第13回：グループワーク1―キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ・班分け 第14回：グループワーク2―班旗作り1（グループの旗のデザイン、下書き） 第15回：グループワーク3―班旗作り2（布描きクレヨンで描く）
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅰ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	火曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 山本　詩織	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 前半では、保育技術のうち、伝承遊びや集団あそびを実践を通して学ぶ。後半では、10月のグループワークキャンプに備えて、グループ作りからキャンプの基礎を学ぶ。 将来、自分の子どもを育てたり、幼児教育の現場で働くであろう学生諸君には、仲間と協力しながら遊ぶ楽しさと、協力しながらイベントをやり遂げるすべも学んでいただきたい。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業計画 第1回：ガイダンス　豊かな遊びの数々、幼少期の遊びの思い出 第2回：伝承遊び 第3回：集団遊び 第4回：新聞紙遊び 第5回：折り紙

	第6回：折り紙――幼児への指導を想定した折り紙 第7回：絵本1―絵本について（図書館）・絵本の読み聞かせのビデオ・グループ練習 第8回：絵本2―グループ練習 第9回：絵本3―絵本の読み聞かせの発表 第10回：紙芝居1―グループ練習の導入 第11回：紙芝居2―グループ練習 第12回：紙芝居3―紙芝居の実演 第13回：グループワーク1―キャンプについて・昨年の日程表・ビデオ・班分け 第14回：グループワーク2―班旗作り1（グループの旗のデザイン、下書き） 第15回：グループワーク3―班旗作り2（布描きクレヨンで描く）
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅱ　AB		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	４時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 青木　章彦	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 １泊２日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業の計画 第1回：グループワーク1―下見報告、メンバー・スタンツの最終確認 第2回：グループワーク2―スタンツ配役、シナリオ調整 第3回：グループワーク3―スタンツ衣装・小道具製作 第4回：グループワーク4―スタンツ練習 第5回：グループワーク5―リハーサル 第6回：グループワークキャンプの振り返り 第7回：自然保育について

	第8回：わいわいひろばの計画1―立案、役割分担 第9回：わいわいひろばの計画2―準備、練習 第10回：児童文化財の活用（わいわいひろばでの実践） 第11回：パネルシアター1―基礎的な事項の確認、ビデオ 第12回：パネルシアター2―パネルシアターの製作 第13回：パネルシアター3―パネルシアターの練習 第14回：パネルシアター4―パネルシアターの実演 第15回：振り返り ※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅱ　CD		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	２時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 青木　章彦	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 １泊２日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業の計画 第1回：グループワーク1―下見報告、メンバー・スタンツの最終確認 第2回：グループワーク2―スタンツ配役、シナリオ調整 第3回：グループワーク3―スタンツ衣装・小道具製作 第4回：グループワーク4―スタンツ練習 第5回：グループワーク5―リハーサル 第6回：グループワークキャンプの振り返り 第7回：自然保育について

	第8回：わいわいひろばの計画1―立案、役割分担 第9回：わいわいひろばの計画2―準備、練習 第10回：児童文化財の活用（わいわいひろばでの実践） 第11回：パネルシアター1―基礎的な事項の確認、ビデオ 第12回：パネルシアター2―パネルシアターの製作 第13回：パネルシアター3―パネルシアターの練習 第14回：パネルシアター4―パネルシアターの実演 第15回：振り返り ※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	児童文化Ⅱ　EF		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	1	時間	30.00
代表曜日	金曜日	代表時限	３時限
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 青木　章彦	指定なし
指定なし	遠藤　隼	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本授業は、①伝承遊びや集団遊びなど、幼児にとっての遊びの意義について理解する、②児童文化財の特徴を理解し、活用することが出来る、③集団で運営する各種活動に積極的に参加できることを目標とする。 これら到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②③④を重視する。 本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「4. 幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を修得している」及び「7. 他者と協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる」を達成するための授業である。
準備学習	必ず事前に準備学習（予習）やプリント・テキストの下読みをして授業に臨むこと。（各回の予習には15分かかると想定される。） また、知識・技能を修得するために復習を行うこと。特に児童文化財の活用においては何度も繰り返し復習・練習を実施することが必須である。（各回の復習には30分以上かかると想定される。）
授業の概要及び授業計画	授業の概要 １泊２日のグループワークキャンプを実施する。保育技術として、お話し、絵本、紙芝居、手遊び、パネルシアターなどを、グループ練習を通して学ぶ。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 基本的に教科書を用いるが、適宜映像や印刷配布物を活用する。 ②授業形態 基礎的な知識の教授は講義形式で行い、その後はグループで体験学習を行う。 ③アクティブラーニング 授業ではグループによる体験学習、グループワーク、児童文化財を活用した実技演習、グループワークの発表などを行う。 ④課題に対するフィードバック フィードバックとして、レポートを返却する際に解説を行う。 授業の計画 第1回：グループワーク1―下見報告、メンバー・スタンツの最終確認 第2回：グループワーク2―スタンツ配役、シナリオ調整 第3回：グループワーク3―スタンツ衣装・小道具製作 第4回：グループワーク4―スタンツ練習 第5回：グループワーク5―リハーサル 第6回：グループワークキャンプの振り返り 第7回：自然保育について

	第8回：わいわいひろばの計画1―立案、役割分担 第9回：わいわいひろばの計画2―準備、練習 第10回：児童文化財の活用（わいわいひろばでの実践） 第11回：パネルシアター1―基礎的な事項の確認、ビデオ 第12回：パネルシアター2―パネルシアターの製作 第13回：パネルシアター3―パネルシアターの練習 第14回：パネルシアター4―パネルシアターの実演 第15回：振り返り ※10月に「グループワークキャンプ」を実施する。
特記事項等	①実務経験のある教員 本授業は、実務経験のある教員（自然学校校長）が担当する。 ②科目のナンバリング SC01107 ③その他の特記事項 10月に「グループワークキャンプ」を実施する。グループワークでは、グループワークキャンプの準備、他を行う。
成績評価法	①試験　0%　試験は実施しない ②レポート　50%　2本課題レポートを課す ③平常点　50%　演習の各種アクティビティ、授業態度 ④その他　0%
教科書	○久富陽子編『実習に行く前に知っておきたい 保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開 ［第2版］』萌文書林、2003年。
参考書	●村中李衣編著『感じあう伝えあうワークで学ぶ児童文化』金子書房、2015年。 ●松本峰雄編著『保育における子ども文化』わかば社、2014年。 ●佐藤通雅『日本児童文学の成立・序説』大和書房、1985年。 ●滑川道夫『日本児童文学の軌跡』、理論社、1988年。
研究室（訪問先等）	中央研究棟２階　２２８研究室 出講日は、前期が月曜日・火曜日、後期が月曜日・水曜日・金曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	028-667-7111（代表）
授業用E-mail	yamamoto@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	幼稚園実習Ⅰ		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 伊藤　敦広	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。 また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための科目です。
準備学習	次の３点を求める。 （１）実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。 （２）実習で求められる教材研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。 （３）日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。
授業の概要及び授業計画	この実習では、見学実習・観察実習・参加実習を中心に行う。 （見学実習） 幼稚園について、どのようなところで、どのように子どもたちが生活しているかを概観する。 （観察実習） 年少・年中・年長組の子どもたちの生活はどのようになっているか、また、発達の違いについて気づく。一つのクラスに配属されることによって、一日の生活の流れや、個々の子どもの様子や、保育者の子どものかかわりについて客観的に観察する。 （参加実習） 見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていく段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。 以上３点の実習を総合的に行い、実践力を身に付ける。
特記事項等	１）実務経験のある教員 該当あり。
成績評価法	実習園の評価や事後レポート等から総合的に評価する。
教科書	特になし。
参考書	

	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。 内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。
研究室（訪問先等）	花田：231研究室 山本：228研究室 井上：229研究室 伊藤：225研究室 直接研究室を訪ねてください。
電話番号	(代)028-667-7111

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	幼稚園実習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教職に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 伊藤　敦広	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	幼稚園実習の意義は、幼稚園の教育・施設設備の特質やあり方、さらに保育内容について深く研究し、把握することにある。 また、幼児教育に関する理論・知識・技能を実践にうつす機会であり、子どもと生活を共にすることによって、子どもへの愛情、教育的熱意、教育の喜び、難しさなどを体得する重要な経験となるものである。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「9.理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための科目である。 ※ 特に、幼稚園実習Ⅱは幼児教育に関する学びの集大成としての意味があるため、幼児教育の現場においてしっかりと実践性を発揮することが求められるので、その覚悟を持って履修すること。
準備学習	以下の４点を求める。 （１）実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておくこと。 （２）実習で求められる保育教材の研究を日々行い、実習に対する心構えを養っておくこと。 （３）責任実習に備えて、指導案（日案・細案）の書き方およびそれに伴う教材研究の方法を復習しておくこと。 （４）日頃から幼児教育に関するニュース等に関心を寄せておくこと。
授業の概要及び授業計画	この実習では、参加実習・部分実習・責任実習を中心に行う。 （参加実習） 見学・観察実習をふまえて、子どもたちの生活の中に入っていく段階。担当の保育者の助手的な役割を果たしながら、子どもの実態や、保育者の役割について体験を通して学ぶ。 （部分実習） 保育の一部分を実習生が担当する。最初は「紙芝居」や「呼名」など点的な保育から始まり、徐々に長くなる。事前に保育の指導案を作成してから実行に移す必要がある。「計画」→「実践」→「反省」→「担当保育者による講評」→「再考察」→「次の保育へ」という流れで行う。 （責任実習） 保育を丸一日実習生が担当する。保育の指導案は登園から降園までを通した「日案」と、その日の主活動の案である「細案」を作成する。 原則として、部分実習・責任実習を実施しない者は単位を認めないので注意すること。
特記事項等	１）実務経験のある教員 該当あり。

成績評価法	実習園の評価や指導案の内容、事後レポート等から総合的に評価する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018年。 内閣府・厚労省・文科省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015年。
研究室（訪問先等）	花田：231研究室 山本：222研究室 井上：229研究室 伊藤：225研究室 直接研究室を訪ねてください

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅰ（保育所）		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	後期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・１～２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 長澤　順	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	本実習は、保育士資格を取得しようとする学生の必修科目である。 １１日間の実習を通して観察、参加（部分）実習を体験し、以下の到達目標を達成することが求められる。 １．保育所の役割や機能を具体的に理解し、説明できる。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、配慮できる。 ３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解し、説明できる。 ４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践できる。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解し、実践できる。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知能と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している。」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」と「5. 音楽・図画工作・体育の技術と表現を身につけ、乳幼児に指導できる。」と「6.自主学習・自主自律を実践できる」と「7.他者との協調・協働して行動できる。また、目標の実現のためにリーダーシップを発揮できる。」と「9. 理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための科目である。
授業の概要及び授業計画	実習の概要 保育所において乳幼児の生活や遊びに参加してその発達的特質を学び、個人差や場面に応じた具対的な働きかけの方法を体得する。また、保育所の一日の生活の流れ、人的・物的環境、保育士の職務内容、チームワーク、勤務体制、家庭や地域社会との連携などについて体験を通し理解を深める。事後は実習で学んだことや反省点をもとに自ら進んで知識の習得に励む努力をする。 授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 保育所や認定こども園において、現場保育者による直接的指導となります。 ②授業形態 学外実習 ③アクティブラーニングの有無 体験学習 ④課題に対するフィードバックの方法 実習日誌を通して、現場保育者及び教員より助言・指導を行います。 保育所実習の内容 １．保育所の役割と機能 （１）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）保育所保育指針に基づく保育の展開 ２．子どもの理解

	（1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助や関わり 3．保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育環境 （4）子どもの健康と安全 4．保育の計画・観察・記録 （1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価 5．専門職としての保育士の役割と職業倫理 （1）保育士の業務内容 （2）職員間の役割分担や連携・協働 （3）保育士の役割と職業倫理
特記事項等	①実務経験のある教員 本科目は、実務経験のある教員（保育士）が担当します。 ②科目のナンバリング SPR1202 ③その他の特記事項 特になし。
成績評価法	①試験　0% ②レポート　0% ③平常点　20%　事前準備状況、実習巡回時の情報を評価する。 ④その他　80%　実習施設からの評価および実習日誌の内容を評価する。
教科書	『保育所保育指針（平成29年告示）』（フーベル館　2017） 『保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』（フーベル館　2017）
研究室（訪問先等）	実習中は、事前説明会で指示があった方法で、連絡を取ってください。
電話番号	028－667-7111（代）

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅰ（施設）		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 久野　高志	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育士資格取得のために必修となる実習科目である。「保育実習指導Ⅰ（施設）」他にて学んだ本実習の対象となる施設の種別、目的、機能を振り返った上で、施設の日常と保育士の職務内容、役割、職員のチームワーク、家庭や地域社会との連携などについて、施設ごとの特性を踏まえて正く理解することを目標とする。到達目標については学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目である
準備学習	本実習に臨む前提として、保育実習指導をはじめとする保育士科目や演習の内容を十分に理解しておく必要がある。 実習日誌には、日々の実習の振り返りの記入欄がある。記入をしながら、実習で学んだこと、理解したことなどを整理し、復習とすると良いであろう。概ね30分程度を想定している。また、実習日誌には、学習課題の記入欄がある。復習を終え、翌日の実習に向けた自身の学習課題を整理し、指導者からの助言や実践すべきことなどを予習しておくこと。概ね20分程度を要する。
授業の概要及び授業計画	1)授業の概要 保育所を除く児童福祉施設、障害者施設等の役割・機能について実習を通し、具体的に理解する。既習教科目の内容を踏まえ、施設利用者に対する支援・養護（ケア）等についてそう総合的かつ実践的に学習し、施設保育士としての職務内容や職業倫理について具体的に理解する。 実習では、主に利用者と生活を共にしながら、生活支援・学習支援・余暇支援・仕事（作業）支援・療育などに参加し、施設保育士の職務や専門性を学習する。またその際には個別面談支援やグループ活動支援など、様々な社会福祉援助技術を用いて実習が行われる。また施設は利用者の生活の場であるため、生活を乱さない配慮が必要であると同時に、高い倫理性が求められる。また自身で考え行動できる主体性が不可欠である。 2)授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 実習施設において、現職職員による直接的指導となります。 ②授業形態 学外実習 ③アクティブラーニングの有無 体験学習 ④課題に対するフィードバックの方法 実習日誌や実務を通して、現場保育者及び教員より助言・指導が行われる。 実習先として配属された施設において、通所または宿泊により実習を行う。実習には90時間以上参加することが条件である。その内訳は以下の通りである。 実習先の事前オリエンテーション　2時間

	本実習　8時間@1日×11日間　　88時間 合計　90時間 本実習に先立ち、学内外にて以下の学習および指導を時間割外で行なう。詳細日程については、年度初めに配布する「キャンパスカレンダー」にて周知する。 5月　施設実習調書記入　90分 実習生としてお世話になる施設様に提出をする書類の記入についての指導を行なう 本実習前　施設見学・体験 本実習前にボランティア等で施設を訪問し、施設の実際を経験する 6月　施設実習説明会 本実習を目前とした時期に、実習日誌の記入確認など実習に臨む準備、事前オリエンテーションに係る依頼連絡の礼儀・方法など、不安なく本実習を行うために指導とそのための説明を行う　90分 10月　実習レポート（提出） 実習を振り返り、学んだこと、印象に残ったことなどをレポートにまとめて提出する。実習事後指導の素材とするだけではなく、後輩達の実習にあたっての重要な教材となる大切なレポートである。レポート作成には180分を想定している。
特記事項等	①実務経験のある教員 　教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング 　SPR2303 ③その他の特記事項 　特になし
成績評価法	試験　０％ レポート（実習後にレポートを提出する）　１０％ 平常点　０％ その他（実習施設による評価（総合評価・5段階及びコメント））　７０％ （実習への取組み状況及び実習日誌）　２０％ 以上により総合的に評価する
参考書	『教育・保育・施設実習テキスト』（第4版）二階堂邦子編著　建帛社
学生へのメッセージ	保育所や幼稚園、こども園と違い、実習先には成人の利用者の方々も多くいらっしゃる場合があります。慣れない環境での実習に戸惑いや緊張は当然あるでしょうが、実習前には皆さんが不安・不明に感じる点についてどのようなことにも一緒に考えていきす。研究室に相談に来てください。事前の説明会と見学会には必ず出席・参加をするようにお願いします。
研究室（訪問先等）	中央研究棟　213研究室（久野研究室） 平日は授業時間以外は研究室にいることが多いので気軽に訪問してください。
電話番号	０２８－６６７－７１１１（代）
準備学習の内容	本実習前に不安を払拭するため、実習施設についての事前学習、実習目標立てをしっかりと行うこと。「保育実習指導Ⅲ」の授業内においても指導があるが、担当教員の研究室を訪問するなどし、十分に準備をしておくこと。
授業用E-mail	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅱ		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 長澤　順	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育実習Ⅰ(保育所)での学びを生かし、保育士としての専門性を高めることをめざす。また多様な保育ニーズ（低年齢児保育、障害児保育、延長保育、一時保育、学童保育など）に対応する保育士の職務内容について体験を通して学ぶ。 到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識と技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。
準備学習	保育実習Ⅰの反省から、自己の目標を明確に持ち、実習保育所でのオリエンテーションを踏まえ、必要な準備をする。
授業の概要及び授業計画	7月末から8月上旬、各自が希望した保育所において11日間（88時間）実習する。 保育所の役割や機能の具体的理解 デイリープログラムの理解と、生活の流れに応じた実践 保育士の指導のもとに乳幼児の保育を担当 個人差についての理解とそれに応じた指導 職員間のチームワークと職務分担の理解 保護者とのコミュニケーションや連携の方法 多様な保育サービスの体験と必要性の理解 子育て支援の実際と地域社会との連携 乳幼児の実態に即した週案、日案の作成と保育実践・評価
特記事項等	本科目は、実務経験のある教員が担当します。
成績評価法	実習保育所での評価および実習日誌により総合的に評価する。
参考書	実習保育学(日本小児医事出版社)帆足英一　2006 シリーズ子どもと保育0～5歳児(かもがわ出版)秋葉英則　2008
研究室（訪問先等）	長澤：227研究室（出講日は水・木・金） 設楽：226研究室（出講日は月・火・水・金） 藤村：223研究室（出講日は月・火・水・木） 直接研究室を訪ねて下さい。
電話番号	長澤：028-670-3687 設楽：028-670-3686 藤村：028-670-3683
授業用E-mail	nagasawa@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 1	shitara@sakushin-u.ac.jp
参考E-mail 2	fujimura@sakushin-u.ac.jp

SystemD CampusPlan Web Service

Help

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅲ		
(副題)			
開講責任部署	幼児教育科（短大）		
講義開講時期	前期	講義区分	
基準単位数	2	時間	90.00
代表曜日		代表時限	
校地	幼児教育科（短大）		
科目分類名	専門科目		
科目分野名	教科に関する科目		
対象学部・年次	短期大学部・２年		
必須/選択	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 久野　高志	指定なし
指定なし	教務委員会　（短大）	指定なし

授業の到達目標及びテーマ	保育士資格を取得しようとする者が選択で行う施設実習科目である。養護施設やケアの技術と知識を深めることを目的とする。加えて福祉施設の社会的なはたらきを総合的に理解することを目指す。したがって本実習に臨む際には、実践的な実習目標および計画を設定し、実行・評価（振り返り）することが求められる。到達目標については、学習成果における①幼児教育者観、②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当し、これらの全てを重視して実習に取り組む。 本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3.情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている。」を達成するための科目である。
準備学習	本実習に臨む前提として、保育実習指導をはじめとする保育士科目や演習の内容を十分に理解しておく必要がある。 実習日誌には、日々の実習の振り返りの記入欄がある。記入をしながら、実習で学んだこと、理解したことなどを整理し、復習とすると良いであろう。概ね30分程度を想定している。また、実習日誌には、学習課題の記入欄がある。復習を終え、翌日の実習に向けた自身の学習課題を整理し、指導者からの助言や実践すべきことなどを予習しておくこと。概ね20分程度を要する。
授業の概要及び授業計画	1)授業の概要 児童厚生施設を含む児童福祉施設（保育所以外）、障害者支援施設等の役割・機能について、実習を通し、具体的に理解する。既習科目の内容を踏まえ、施設利用者に対する支援、養護（ケア）等について総合的かつ実践的に学習し、施設保育士としての職務内容や職業倫理、保育士としての実践力を習得する。 保育実習Ⅰ（施設）のように実習施設が限定されていないため、社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設等から、実習生自ら実習先（実習施設種別）と実習希望期間をまとめ、「保育実習指導Ⅲ」において担当教員との面談により実習依頼をする。また実習先は保育実習Ⅰ（施設）で指定される施設を含む。 実習時期は受入施設との調整がつけば、授業のある期間を除きいつでも可能である（8月上旬もしくは9月上旬に実施する学生が多い）。実習期間は保育実習Ⅰと同様に実質11日間である。 実習先の選定および実習受け入れ依頼（実習開始3ヶ月前を目途に決定）と実習先の調査（実習先として指定された施設についての学習）。本実習では、主に利用者と生活を共にしながら、生活支援・学習支援・余暇支援・仕事（作業）支援・療育などに参加し、施設保育士の職務や専門性を学習する。またその際には個別面談支援やグループ活動支援など、様々な社会福祉援助技術を用いて実習が行われる。また施設は利用者の生活の場であるため、生活を乱さない配慮が必要であると同時に、高い倫理性が求められる。また自身で考え行動できる主体性が不可欠である。 2)授業の方法 ①プレゼンテーションの方法 実習施設において、現職職員による直接的指導となります。 ②授業形態 学外実習 ③アクティブラーニングの有無 体験学習 ④課題に対するフィードバックの方法 実習日誌や実務を通して、現場保育者及び教員より助言・指導が行われる。

	実習先の施設において、通所または宿泊により実習を行う。実習には90時間以上参加することが条件である。 その内訳は以下の通りである。 実習先の事前オリエンテーション　2時間 本実習　8時間@1日×11日間　　88時間 合計　90時間 本実習に先立ち、学内外にて以下の学習および指導を時間割外で行なう。詳細日程については年度初めに 「キャンパスカレンダー」の配布により周知する。 5月　施設実習調書記入　90分 実習生としてお世話になる施設様に提出をする書類の記入についての指導を行なう 本実習前　施設見学・体験 本実習前にボランティア等で施設を訪問し、施設の実際を経験する。 6月　施設実習説明会 本実習を目前とした時期に、実習日誌の記入確認など実習に臨む準備、事前オリエンテーションに係る依頼連絡の礼儀・方法など、不安なく本実習を行うために指導とそのための説明を行う　90分 10月　実習レポート（提出） 実習を振り返り、学んだこと、印象に残ったことなどをレポートにまとめて提出する。実習事後指導の素材とするだけではなく、後輩達の実習にあたっての重要な教材となる大切なレポートである。レポート作成には180分を想定している。
特記事項等	①実務経験のある教員 　教育相談およびスクールソーシャルワークの経験のある教員（公認心理師・社会福祉士）が担当します。 ②科目のナンバリング 　SPR2305 ③その他の特記事項 　特になし ③その他の特記事項 　特になし
成績評価法	試験　０％ レポート（実習後にレポートを提出する）　１０％ 平常点　０％ その他（実習施設による評価（総合評価・5段階及びコメント））　７０％ （実習への取組み状況及び実習日誌）　２０％ 以上により総合的に評価する 以上により総合的に評価する
教科書	なし
参考書	『教育・保育・施設実習テキスト』（第4版）二階堂邦子編著　建帛社
学生へのメッセージ	保育所や幼稚園、こども園と違い、実習先には成人の利用者の方々も多くいらっしゃる場合があります。慣れない環境での実習に戸惑いや緊張は当然あるでしょうが、実習前には皆さんが不安・不明に感じる点についてどのようなことにも一緒に考えていきす。研究室に相談に来てください。事前の説明会等には必ず出席・参加をするようにお願いします。
研究室（訪問先等）	中央研究棟　2階　213研究室 平日の授業時間以外は概ね在室しているので気軽に質問に来てください。
電話番号	028-667-7111（代）
準備学習の内容	本実習前に不安を払拭するため、実習施設についての事前学習、実習目標立てをしっかりと行うこと。「保育実習指導Ⅲ」の授業内においても指導があるが、担当教員の研究室を訪問するなどし、十分に準備をしておくこと。
授業用E-mail	kuno@sakushin-u.ac.jp

ウインドウを閉じる